

ARC-8050/8050T2 をブラウザで設定する際、正常に動作しない場合には Firefox をご用意ください。

本簡易マニュアルをご利用になるにあたって、利用環境に応じて各項目からご覧ください。項目 1, 2, は共通項目となりますのでご覧ください。

RAID 本体の IP アドレスを固定する場合は、**項目 3,** からご覧ください。

項目 3-1 が Windows 用 項目 3-2 が MacOS 用となり、項目 3-3 は共通事項です。

DHCP をご利用になっている場合には環境を問わず **項目 4,** からご覧ください。

項目 6 は共通事項となります。ここで RAIDVolume の作成を行います。

項目 7 が Windows 用 項目 8 が MacOS 用の Driver、パーティション作成方法です。

項目 5 は Windows 用のユーティリティのインストールを含む設定方法です。

項目 5 は通常ご利用にならず、環境に合わせて上記項目をご覧ください。

※仕様制限 等 注意事項

・連動電源機能に関して

本製品は PC と接続している場合、連動電源にて ON/OFF が実施されます。初期設定などでケーブルを接続しない場合を除き製品単独での電源 ON/OFF 制御はできません。

背面 Reset スイッチ長押しによる電源 ON/OFF を実行した場合、PC からは正常に認識を行うことができず、シャットダウン時にも正常に電源 OFF することができない場合があります。

・ビープ音の仕様

ビープ音は本体設定でミュート設定がございますがエラー時のビープ音の設定となっておりますので製品起動時のビープ音を止めることはできません。

・イーサネットポートの機能

イーサネットポートに関しては、マネジメントポートとしての実装となっております。

また、環境によっては DHCP をうまく取れない場合がございます。

この場合は、製品の IP アドレスをネットワークに合わせた IP に固定をして下さい。

・背面 FAN に関して

本製品の背面 FAN をふさいだり、停止したりさせないでください。

製品の ASIC が熱暴走し最悪発火するなどの重篤な問題となる場合があります。

・コネクタに関して

本製品は精密機器となります。

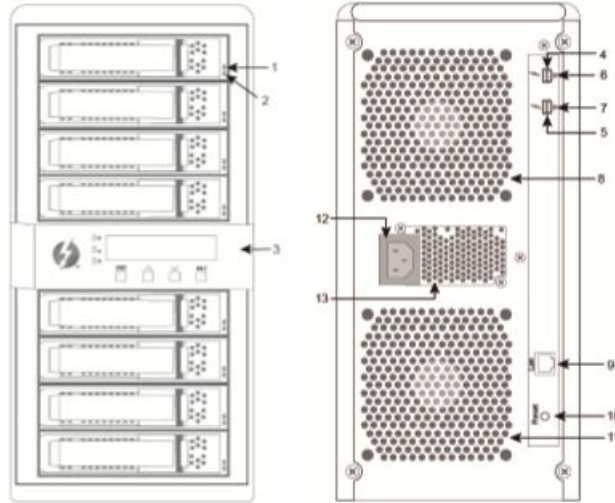
コネクタに関しての破損は有償修理になりますのでご注意ください。

弊社では出荷時に確認済みで出荷しております。

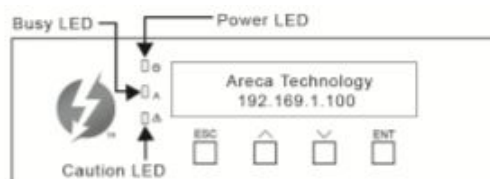
■ 項目 1. 電源の入れ方

次項目画像 10 Reset Button 長押し(約 5 秒)で ARC-8050 の電源 ON/OFF を行います。

※設定が完了するまで、ThunderBolt ケーブルを本体に接続しないでください。



Front View	Rear View
1. Disk Activity LED 2. Disk Fault/Link LED 3. LCD Panel with Keypad	4. Thunderbolt Port1 5. Thunderbolt Port2 6. Thunderbolt Port1 Link LED 7. Thunderbolt Port2 Link LED 8. System Fan1 9. LAN Port 10/100Base-T マネジメント専用 10. Reset Button or 電源ボタン 11. System Fan2 12. Power Connector 13. Power Supply Fan



LED 部のアクセステーブル

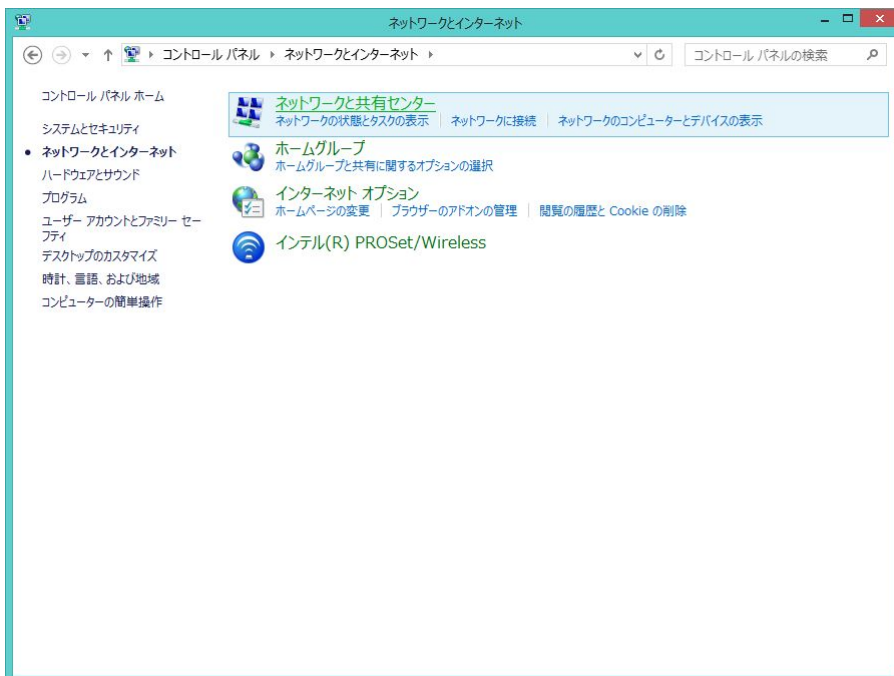
Panel LED	Normal Status	Problem Indication
1. Power LED (Green)	緑色 点灯	緑色 点灯
2. Busy LED (Amber)	オレンジ色 アクセス時 点滅	問題発生時の状況による
3. Caution LED (Red)	消灯	問題発生時点滅にて警告

■ 項目 3-1. 現在の IP アドレスの確認方法 For Windows

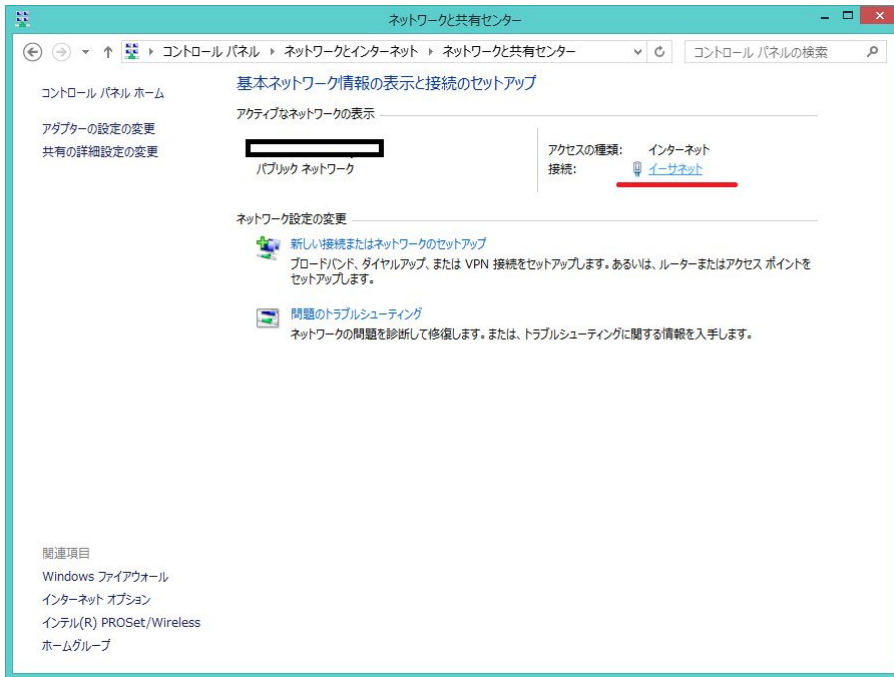
コントロールパネルを開きます。



ネットワークとインターネット をクリック



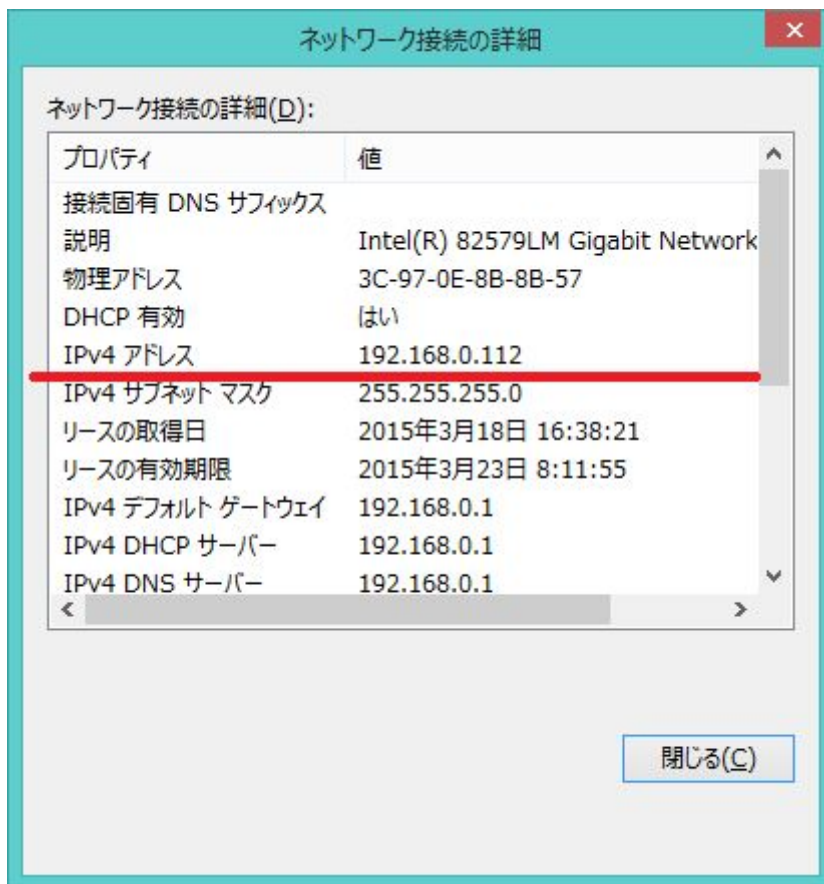
ネットワークと共有センター をクリック



赤線の イーサネット の箇所をクリック
※ご利用の環境で名称が異なります。



詳細 をクリック



赤線の IPv4 アドレス を確認してください。

上記の場合、IP Address の項目が 192.168.0.112 と記載されておりますので、ローカル IP アドレスで運用中の環境となります。

RAID 本体の IP アドレスは、192.168.0.112 以外で空いているものを割り当ててください。

例 : 192.168.0.200

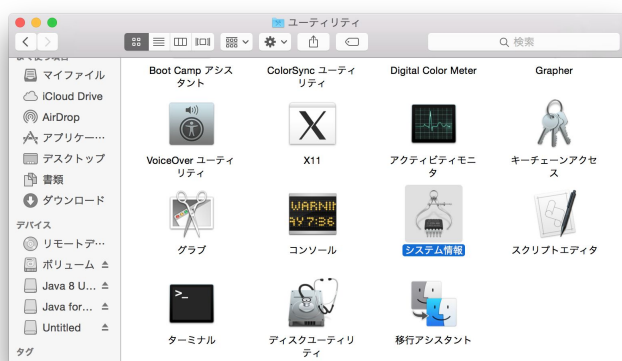
■ 項目 3-2. 現在の IP アドレスの確認方法 For MacOS



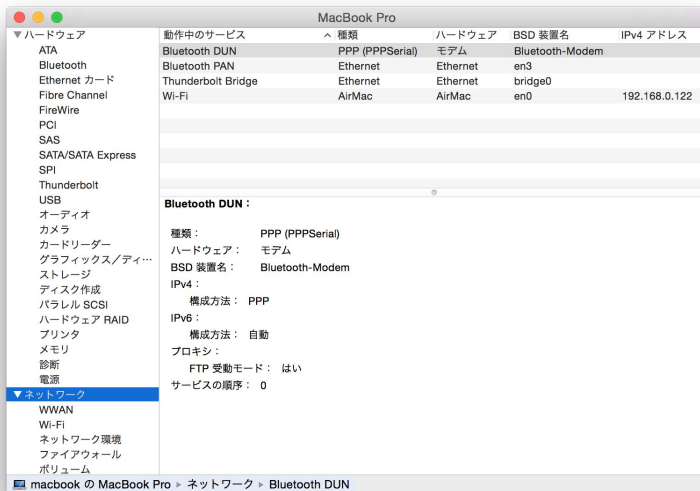
Finder をクリック



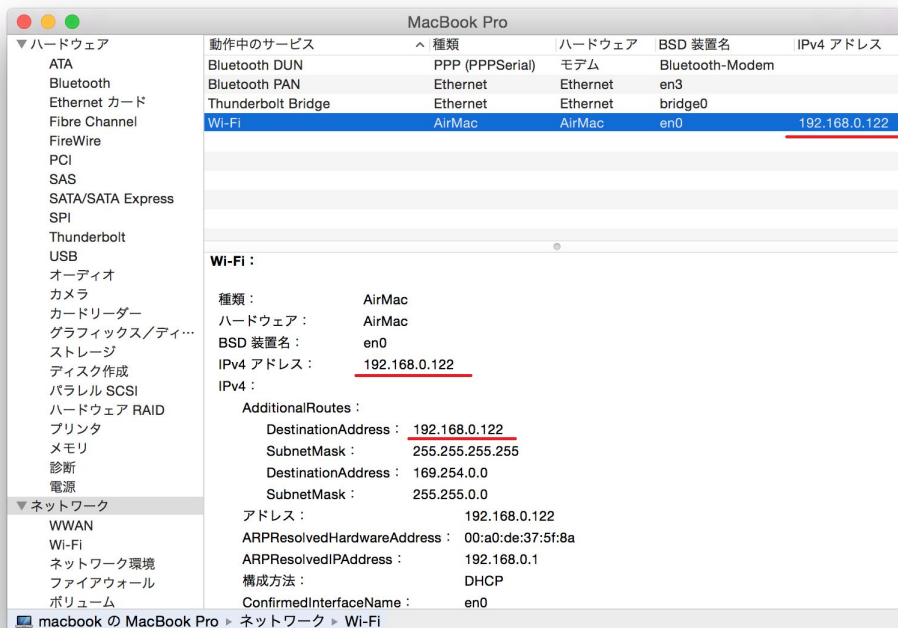
ユーティリティをクリック



システム情報をクリック



ネットワークをクリック



赤線の IPv4 アドレス を確認してください。

上記の場合、IP Address の項目が 192.168.0.122 と記載されておりますので、ローカル IP アドレスで運用中の環境となります。

RAID 本体の IP アドレスは、192.168.0.122 以外で空いているものを割り当ててください。

例 : 192.168.0.200

■ 項目 3-3. RAID 本体の IP アドレスを固定する

192.168.0.200 を本体に割り当てを行います。

※192.168.0.200 の IP アドレスが空いていることを前提とします。

1. 製品の ENT ボタンを押し、下記のような画面を出して下さい。

Verify Password:

_

ここで 0000 を入力し、_が最後に来るまで ENT を押してください。

※ ▲を押すと 0 が最初に出ます。

EtherNet

Configuration

上記画面が、現れるまで、▼か▲ を押してください。 こちらの画面まできたら ENT を押してください。

DHCP Function

Enabled

となっていますので、こちらを Disabled にします。

▼ を押し、下記画面を表示にさせてください。

Local IP Addr.

192.168.1.100

ここで ENT を押し書き画面にしてください。

Modift Local IP

192.168.0.100

設定を 192.168.0.200 に変更します。 ※ ▼▲で数字の変更。 ENT で次の数字

Confirme Change?

ENT:Yes, ESC:NO

と出ますので ENT を押し確定して下さい。

Local IP Addr.

192.168.0.200*

ESC を下記画面となるまでおして下さい。

Areca Technology

192.168.0.200*

以上で本体の IP アドレスは 192.168.0.200 に固定されました。

項目 7, に移動してください。

■ 項目 4. DHCP での IP アドレス確認

本体の LCD をご確認ください。

Areca Technology

192.168.0.153*

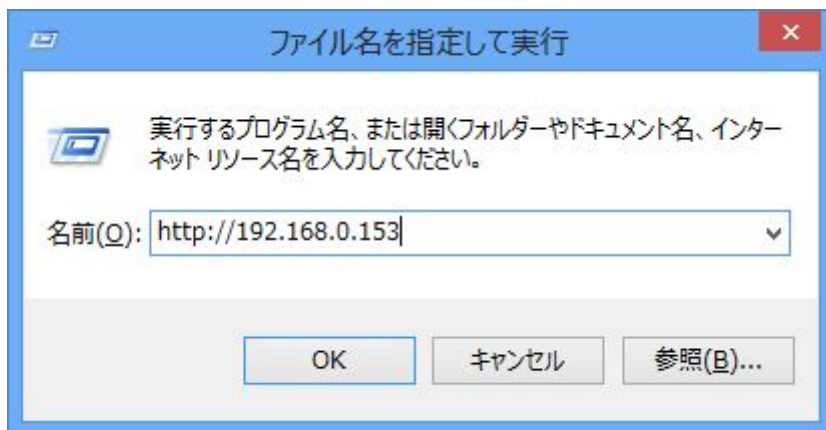
のように表記されておりますので、ここでは 192.168.0.153 としますが、この部分に関しては表示されているアドレスを入力してください。

出荷時設定は DHCP になっておりますので、DHCP が ON のネットワークの場合には、自動で IP アドレスを取得いたします。

DHCP が OFF のネットワークの場合には項目 1.を確認のうえ、設定を行ってください。

Windows キーないしはスタートをクリックし、ファイル名を指定して実行を選択。

下記のように <http://192.168.0.153/> と入力をし OK をクリックしてください。



項目 7, に移動してください。

■ 項目 5. Windows でのユーティリティを使用した接続

本体と Thunderbolt ケーブルで接続をしてください。

http://www.kingtech.co.jp/common/products/areca/file/th_win.zip

とブラウザに入力をしてください。

ダウンロードしたファイルを解凍し、展開してください。

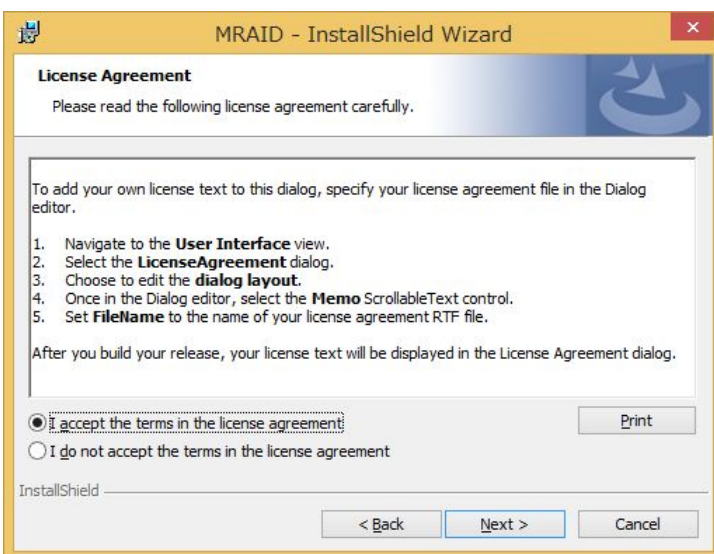
32bit の場合は、 win7n8_32bit_installer.exe

64bit の場合は、 win7n8_64bit_installer.exe

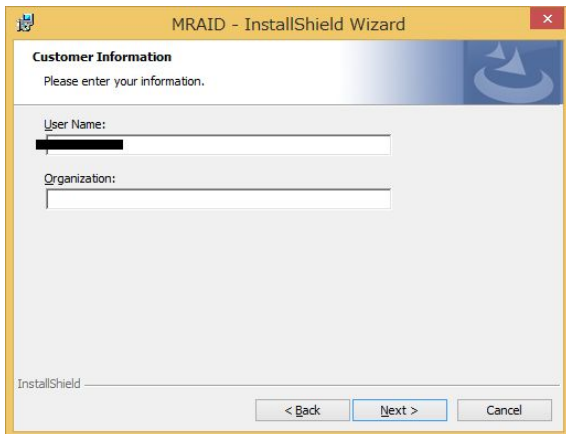
をそれぞれダブルクリックをし、インストールを開始します。



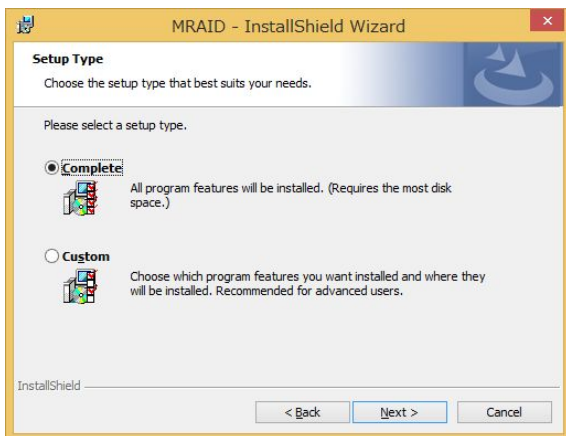
Next をクリック



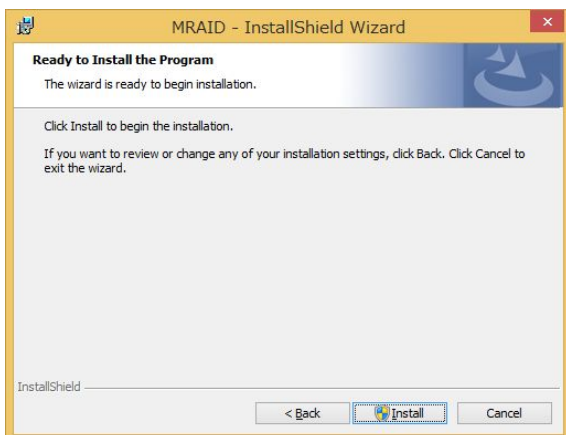
I accept にチェックを入れ、 Next をクリック



Next をクリック



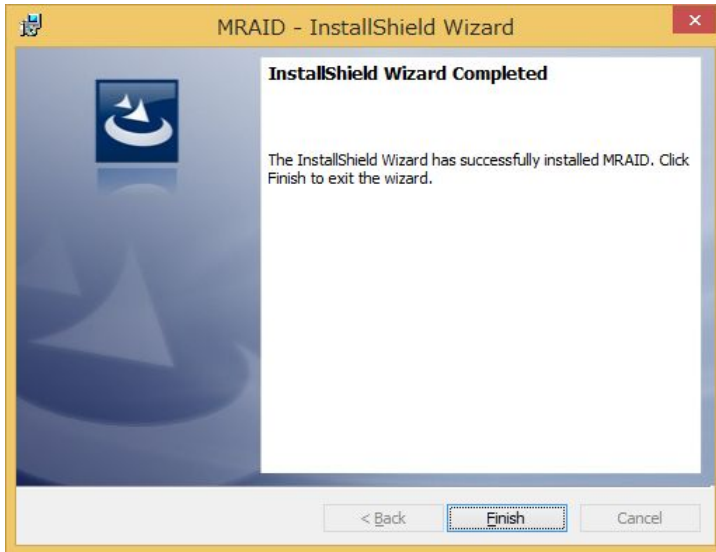
Complete にチェックが入っているのを確認し、 Next をクリック



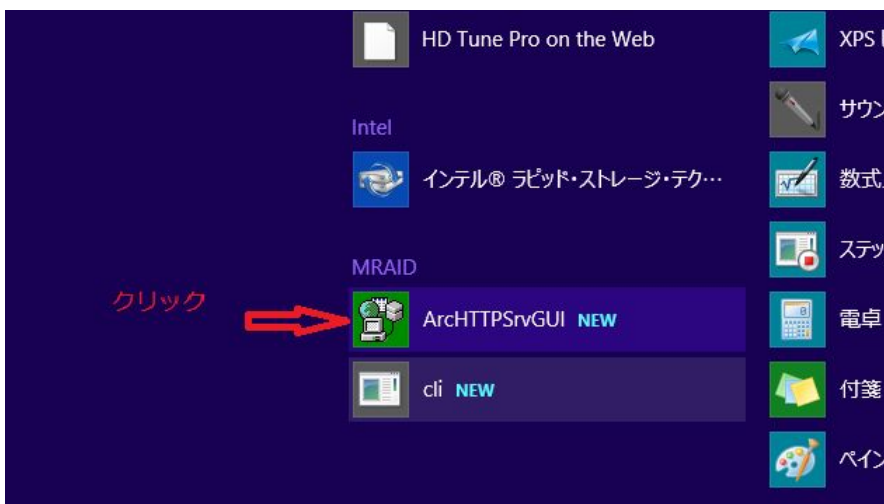
Install をクリック

※管理者権限でログインをしていない場合は、administrator パスワードが必要となります。

※UAC 制御が許可を求めてきますので はい をクリックしてください。



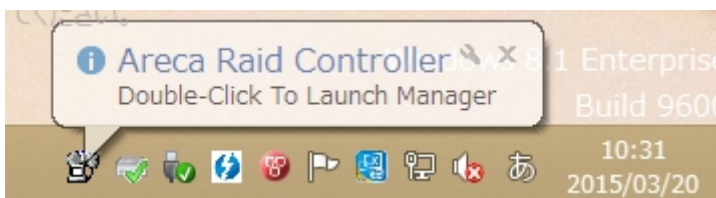
Finish をクリックしてください。



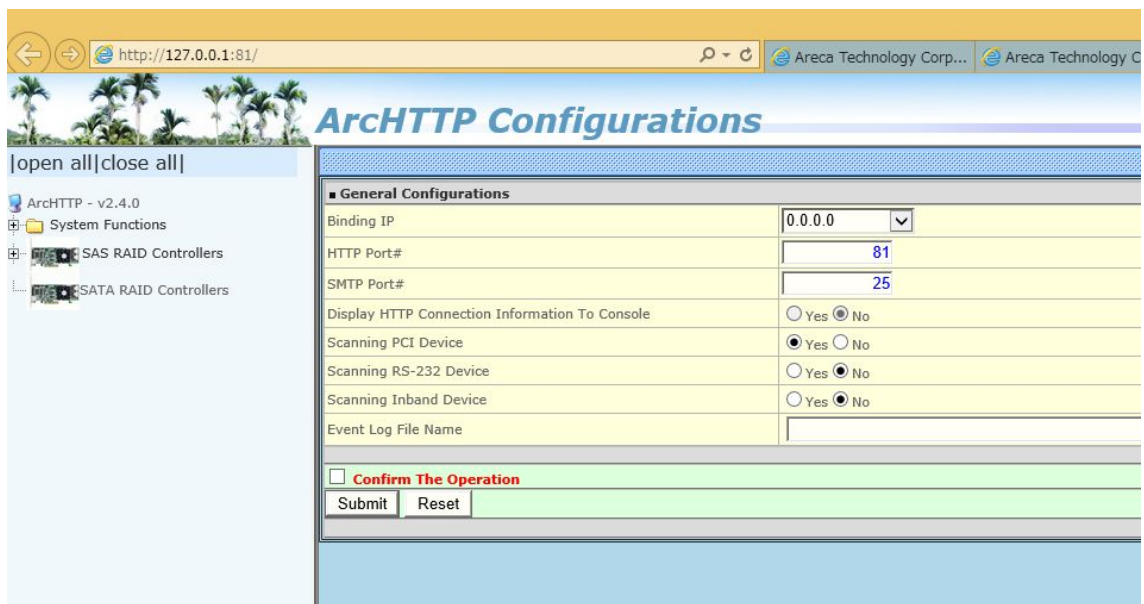
アプリの一覧から、 ArcHTTPSrvGUI をクリックしてください。

※上記は、Windows8.1の画面になります。

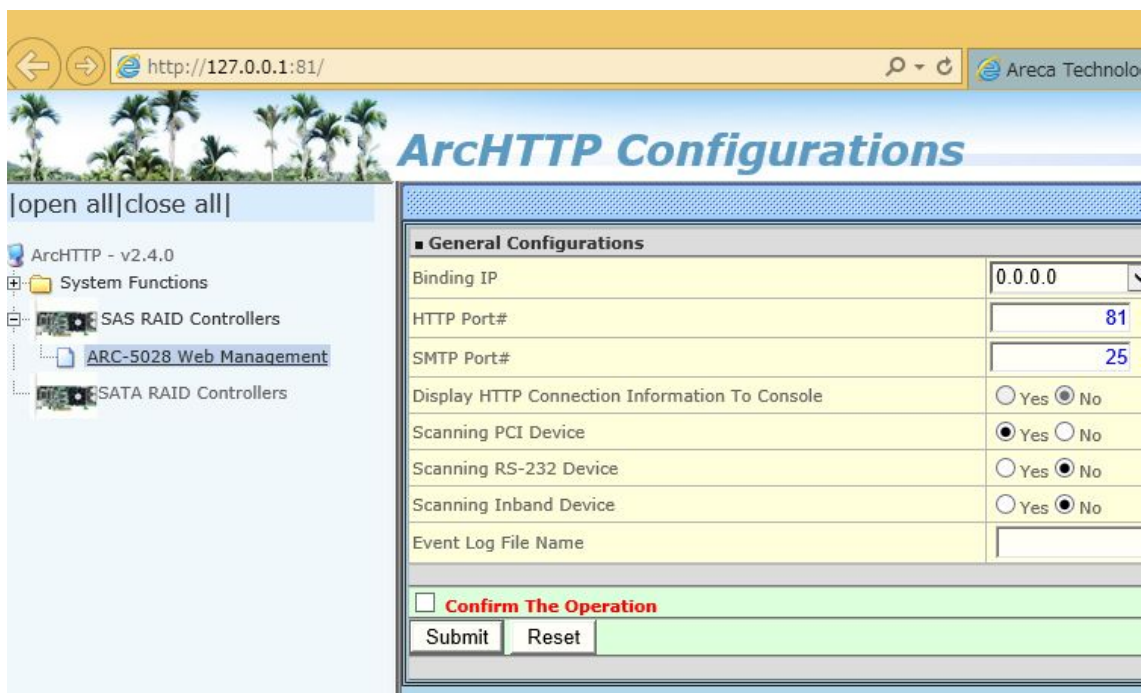
Windows7の場合は、すべてのプログラム > MRAID となります。



デスクトップ画面に戻り、 タスクトレイに下記のようなアイコンとメッセージが出ますのでダブルクリックをし起動してください。



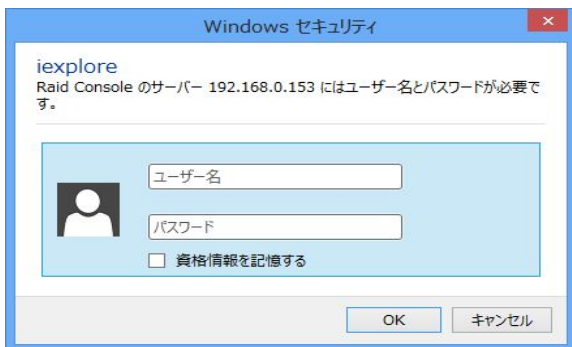
+表示となっている、SAS RAID Controllers をクリックしてください。



表示された、コントローラをクリックしてください。

項目 7. に移動してください。

■ 項目 6. RAID 本体へのアクセス



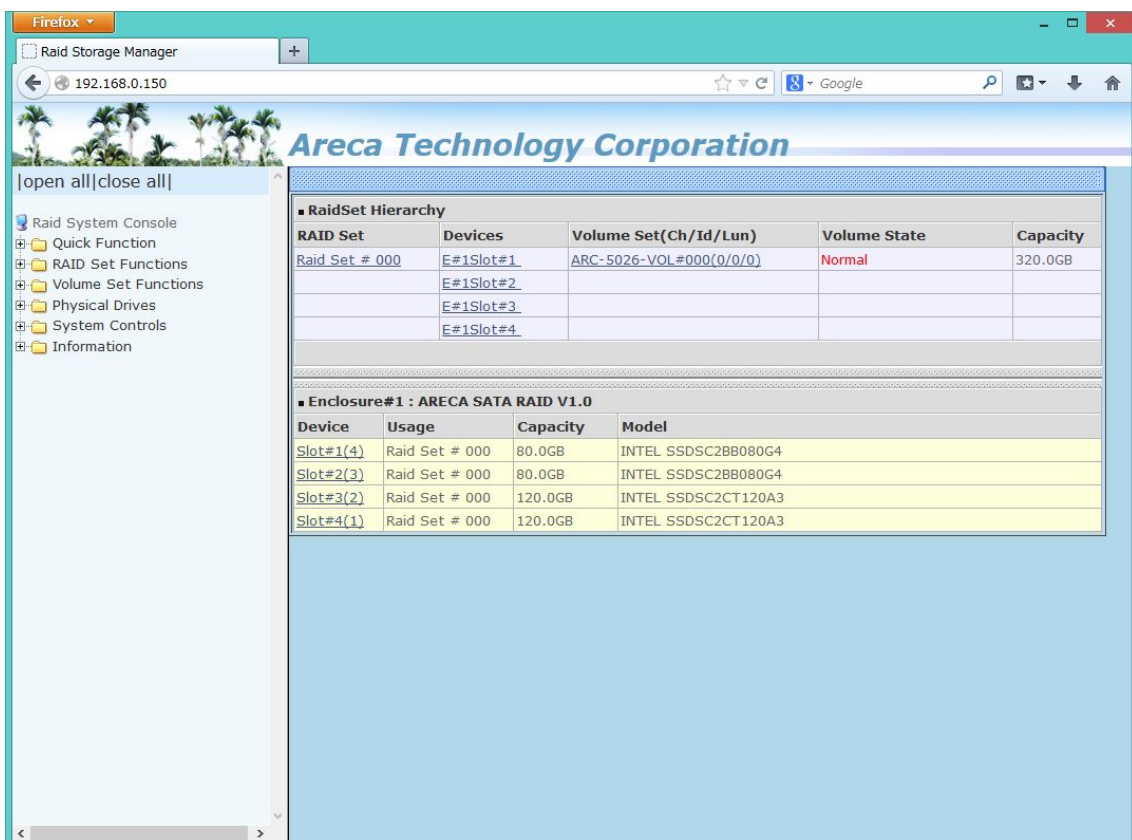
デフォルト設定は、ユーザ名:admin パスワード:0000 となります。

※パスワードは任意で変更することが可能ですが、RAIDArray の安全性を保つためにパスワードのクリア・初期化の機能は搭載されておりません。

いかなる理由であっても弊社にお送りいただく以外にクリアの方法はございませんので、必ず変更したパスワードがわかるようにしておいてください。

オンサイト対応の費用等に関しては別途弊社営業までお問い合わせください。

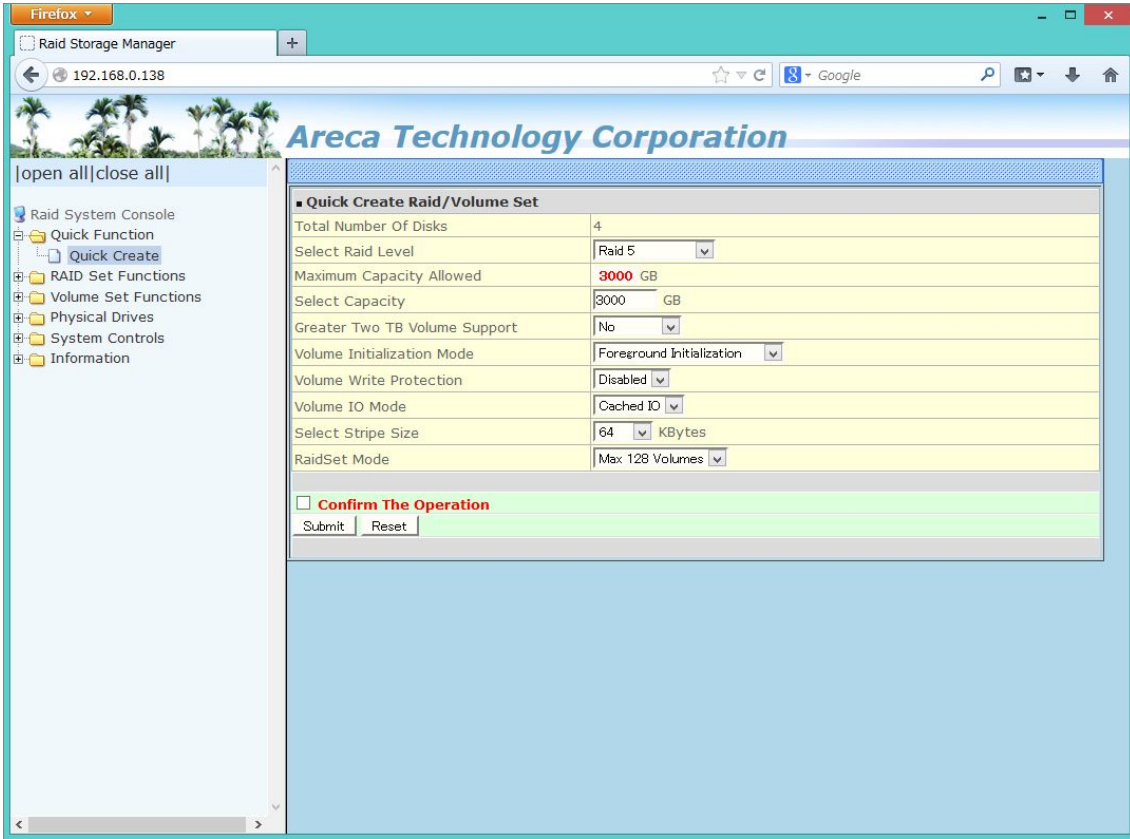
パスワードが正常に入力されると下記のような画面となりログインが完了します。



■ 項目 7-1. RAID Array を構築しよう。

1.Quick で作る場合。

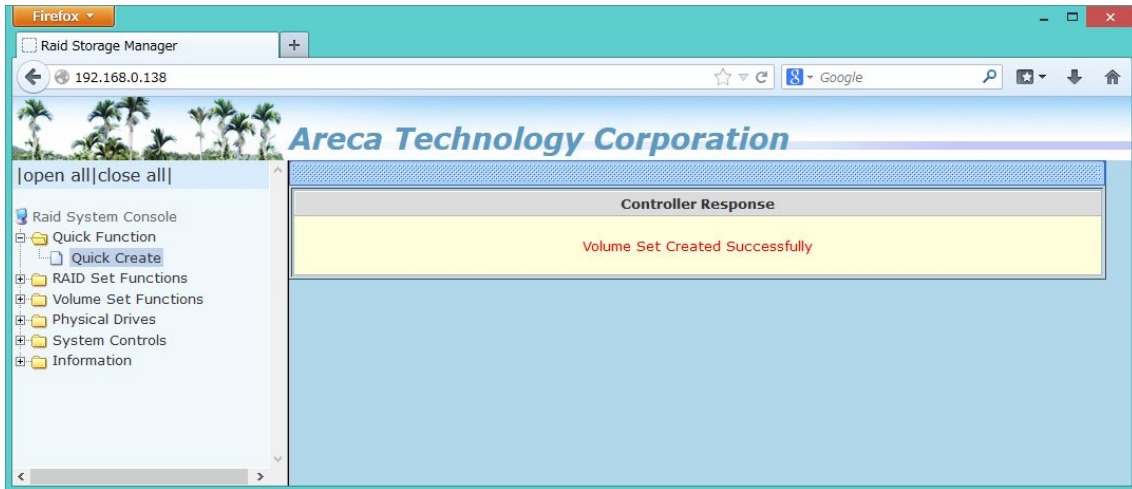
左のメニューから Quick Function をクリックし、Quick Create を選択してください。



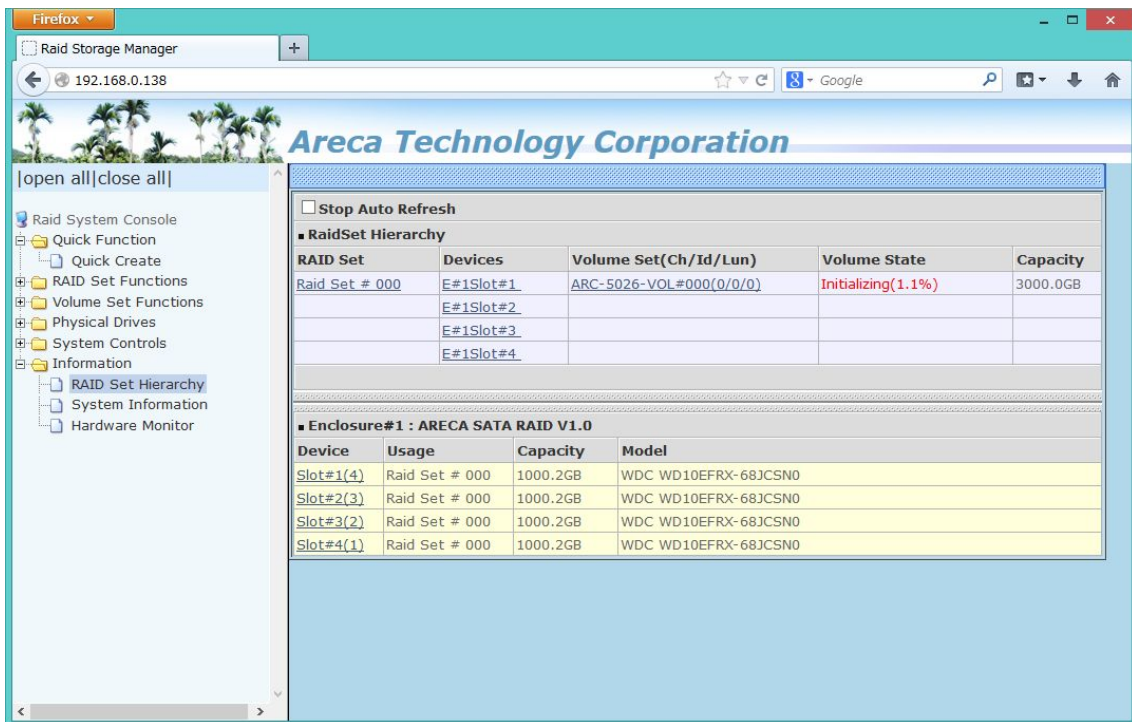
上記のような画面となります。

下記項目を設定してください。

- | | | |
|-----------------------------|---|--|
| Select RAID Level | : | 任意の RAID Level |
| Greater Than Two TB Support | : | YES/NO 2TB 以上 1Volume で使用する場合
64bit LBA を使用してください。
4K Block は特殊な事例です。 |
| Volume Initialization Mode | : | Fore ground / Back Ground / Noinit
通常変更せず ForeGround で行ってください |
| Select Stripe Size | : | 通常 64KB で変更しないでください。 |
| Raid Set Mode | : | Max 128 / Max 16 Volumes
SATA Subsystem と互換性を保つときのみ
16Volume を選択して下さい。
通常は変更しないでください。 |
| Volume IO Mode | : | 通常変更をしないでください。 |
- 上記設定し **Confirm The Operation** のチェックボックスにチェックをいれ Submit をクリックしてください。 **Volume Set Created Successfully** と表示されます。



左のメニューバーの **Information** をクリックし、**RaidSet Hierarchy** を選択してください。



完了するまで自動更新で実行されます。

手動で確認を実施する場合は、 **stop Auto Refresh** にチェックを入れてください。

Initializing(0.0%) が 100%になれば構築は完了です。容量が大きければ時間もかかります。 ※RAID 構築中は電源を切ったり、コントローラの再起動は行わないでください。完了しましたら、項目 4. RAID ユニット本体の設定に 飛んでください。

■ 項目 7-2. 細かく RAID Array を構築しよう。

HotSpare の割り当て数をより多く設定したり、Raidvolume に対して設定したい場合は、手動で設定していただくことになります。

操作に慣れている場合は、設定項目も確認しながら行えますので、通常に使用する場合でもこちらで説明する Manual 操作で設定するのも良いでしょう。

ここからは、下記内容を例題として Manual による構築を行います。

※USB3.0 使用時は、LUN で分割したデバイス認識を行えません。

複数デバイスの認識は ThunderBolt のみ対応となります。

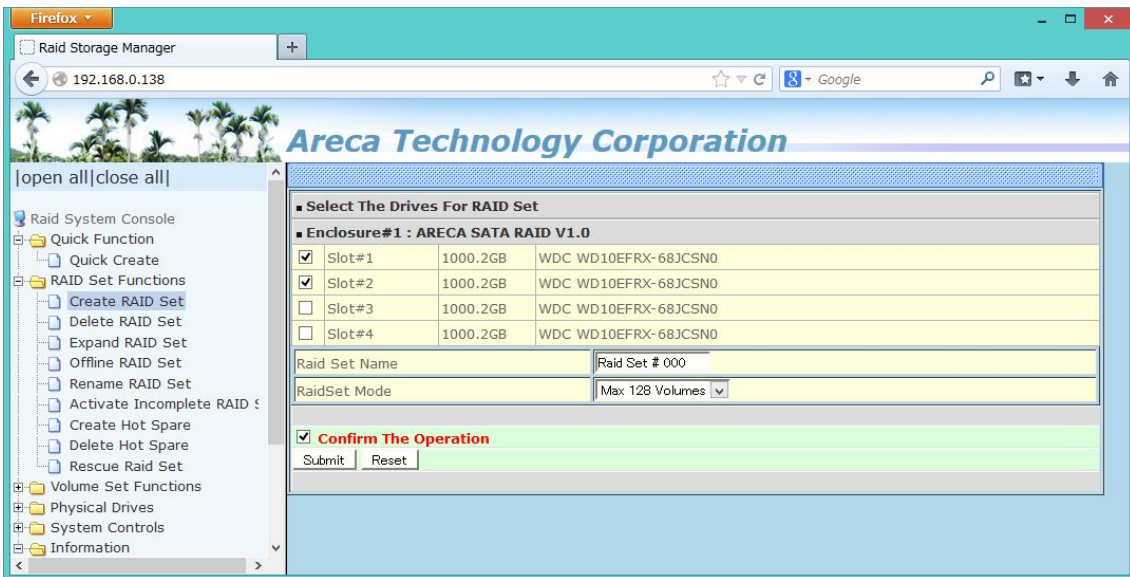
下記設定例は USB3.0 ではご利用になれません。

RAID Set #000 Disk1 Disk2 を
RAID Volume #000 は Raidlevel1 で 100GB
RAID Volume #001 は RaidLevel1 で 900GB
Disk3 は Pass-Through Disk
Disk4 は GlobalHtspare

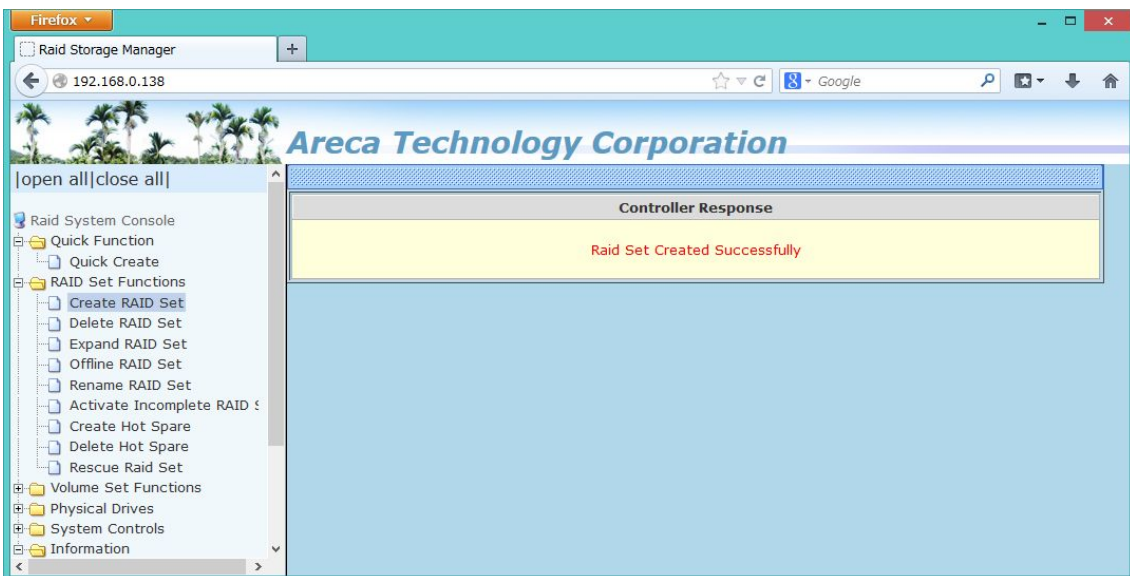
Disk 1 WD10EFRX-68JCSNO Raidset #000 , RAID Volume #000 , RAID Volume #001
Disk 2 WD10EFRX-68JCSNO Raidset #000 , RAID Volume #000 , RAID Volume #001
Disk 3 WD10EFRX-68JCSNO Global Hotspare
Disk 4 WD10EFRX-68JCSNO Pass-Through Disk Volume #000

流れとしては、Raid Set Function でDiskを割り当て、
Volume Set Function でRAIDVolumeを構築するという流れになります。

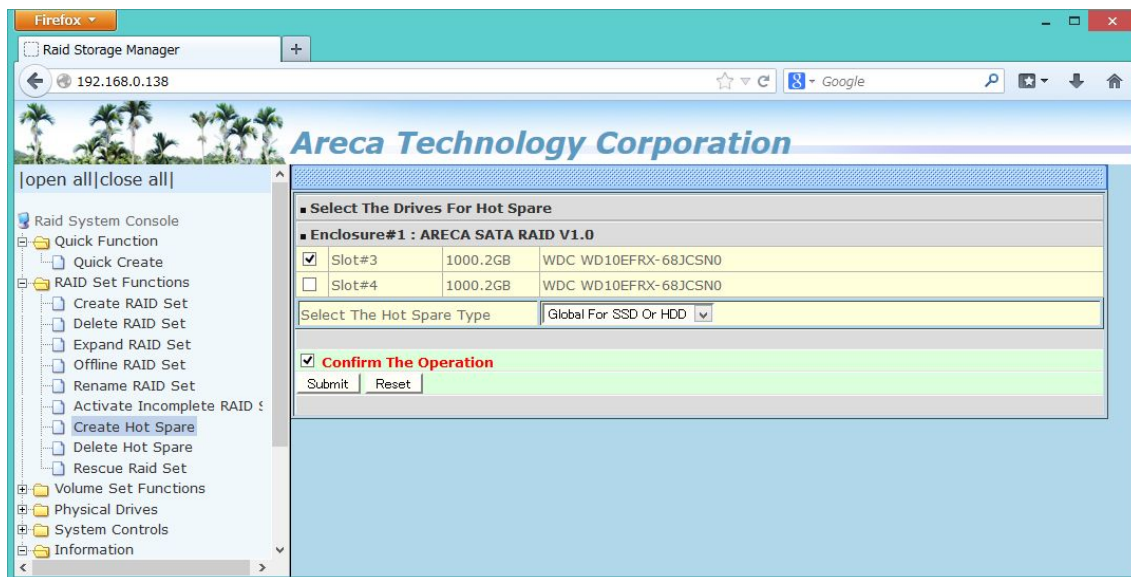
Raid Set Functions での設定 RAID Set Functions > Create raid set



Slot1,2 にチェック Confirm The Operation にチェック後 submit

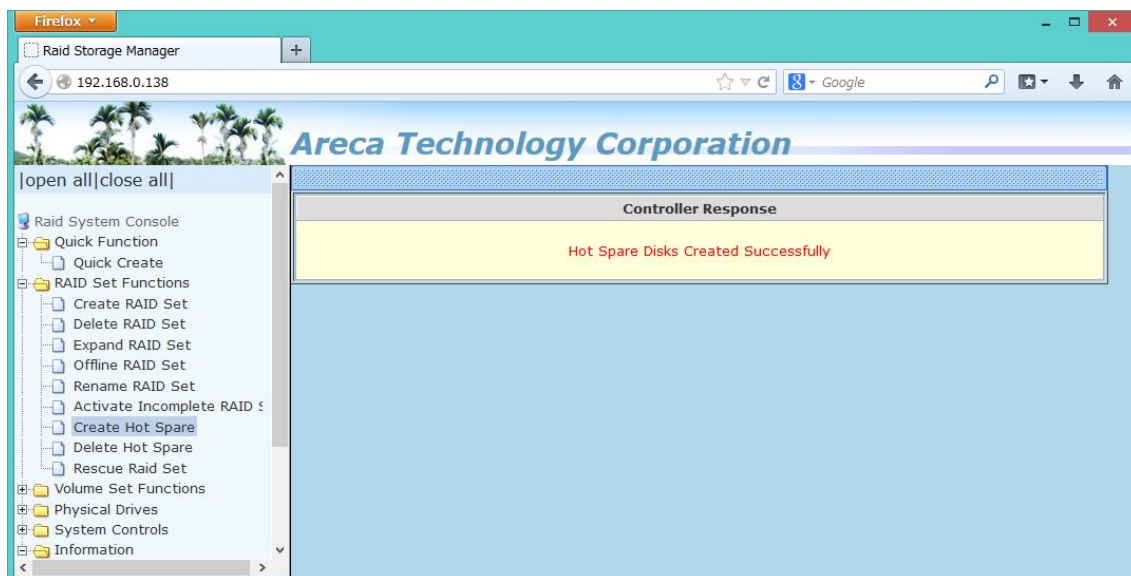


再び RAID Set Functions > Create Hot spare



Slot3 にチェック Confirm The Operation にチェック後 submit

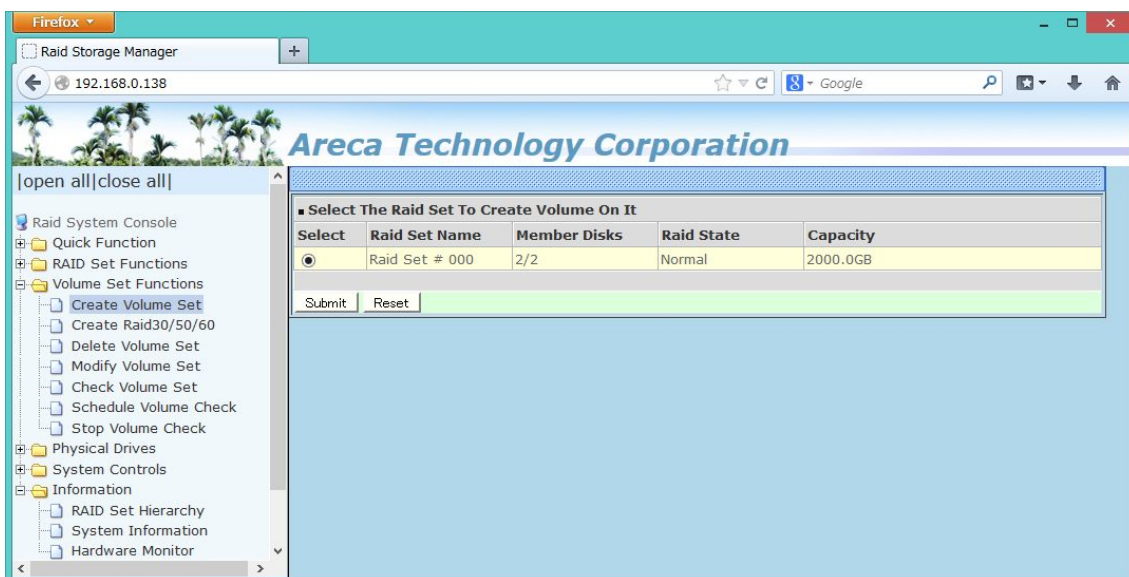
※ Hotspare の場合は、Global For SSD or HDD か Global For all を選択



RAID Set Functions での設定はこれで完了となります。

次は、Volume の作成となります。

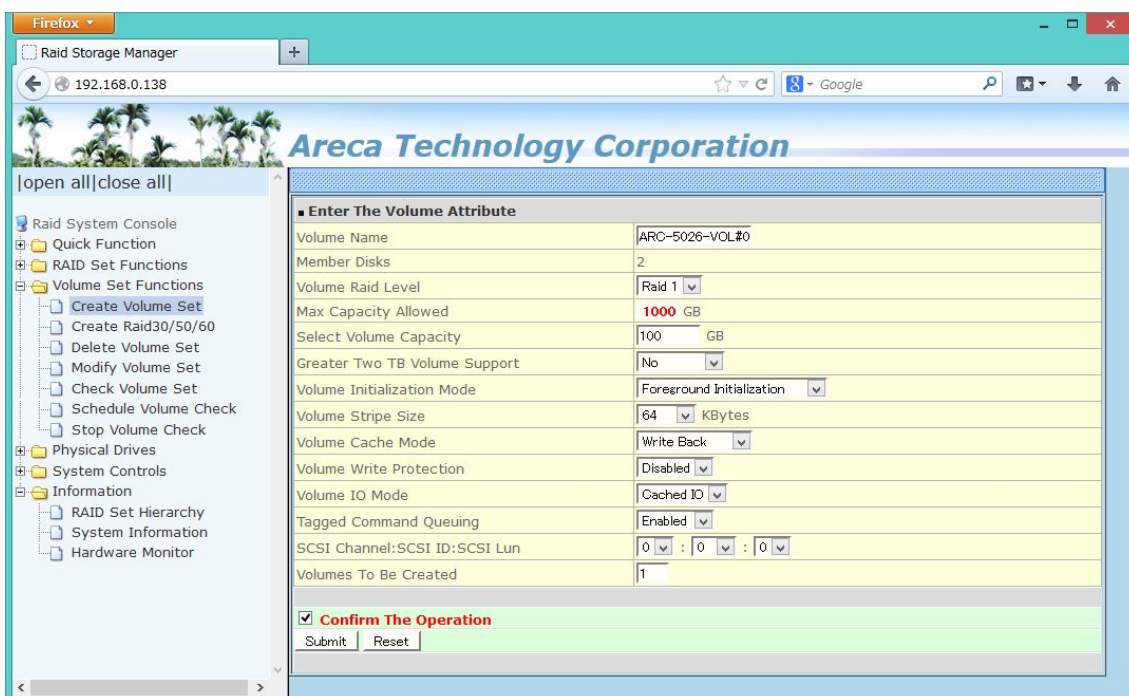
引き続き Volume Set Functions > Create Volume Set での設定となります。



上記のように Raid Set #000 が出来上がっています。

Submit をし、設定をしていきます。

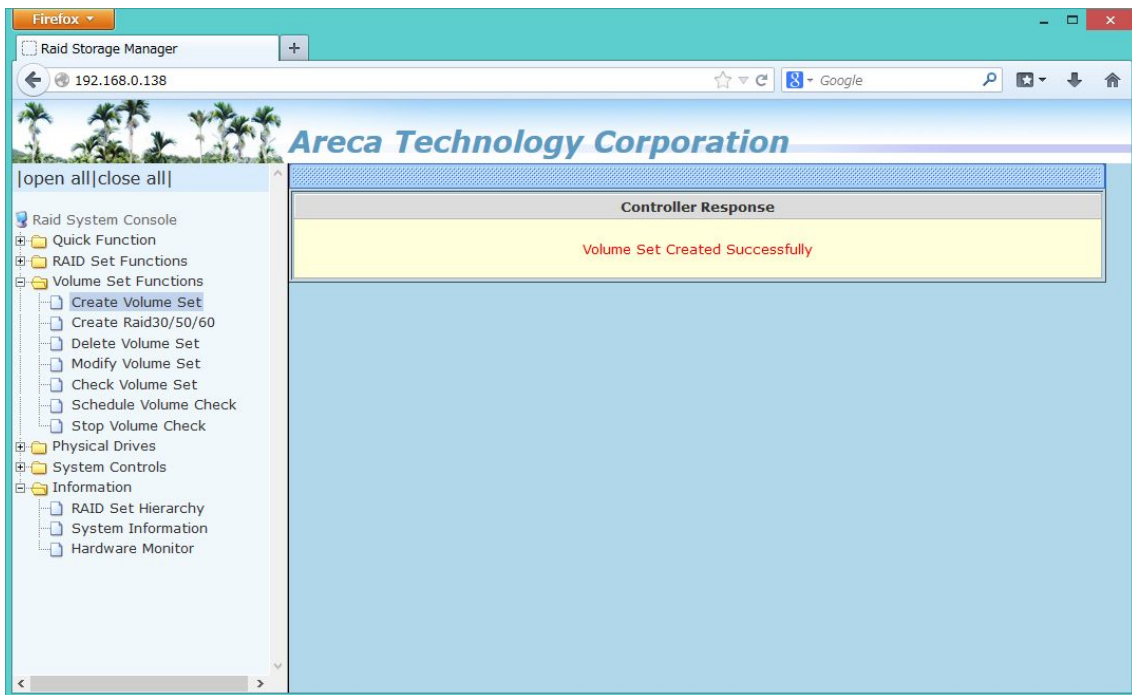
Volume #000 の設定



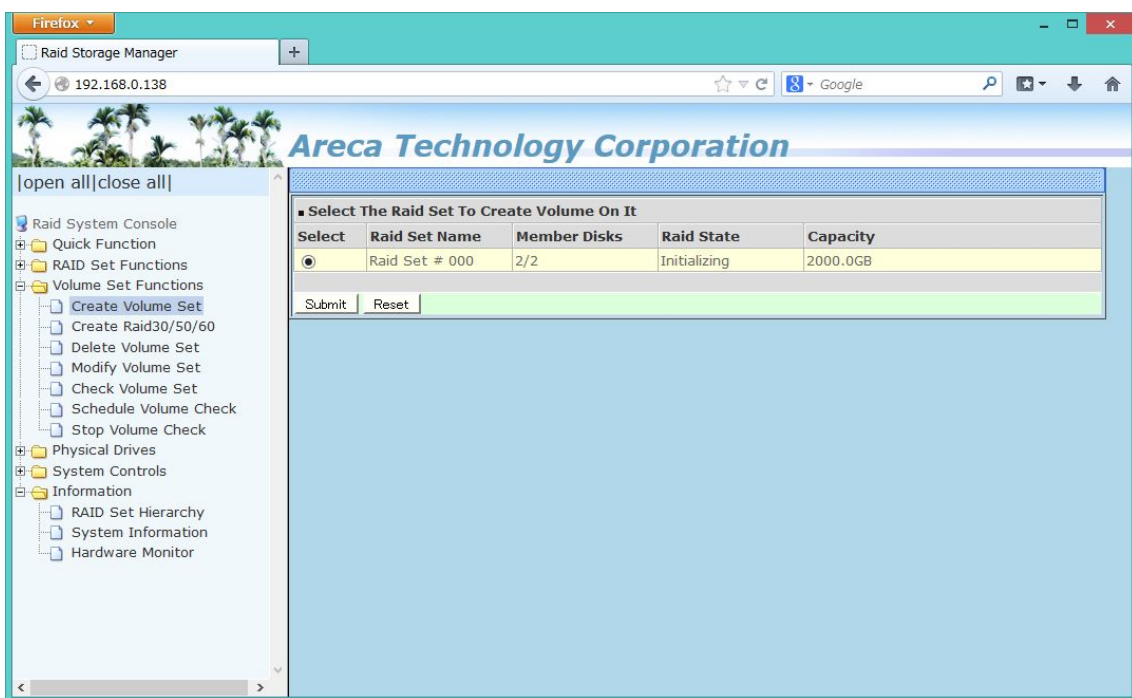
Select Volume Capacity を 100 としてください。

SCSI Channel:SCSI ID:SCSI Lun 0 0 0 となっていることを確認し

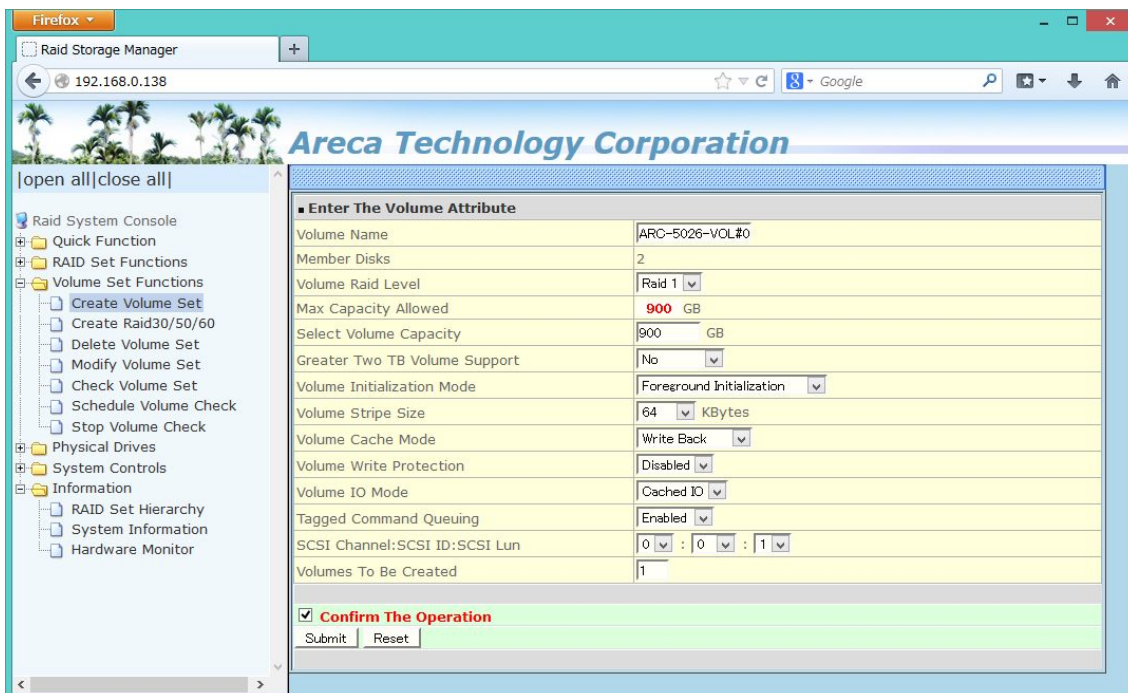
Confirm The Operation にチェック後 submit



引き続き Volume Set Functions > Create Volume Set での設定となります。
Submit をし、設定をしていきます。



Volume #001 の設定



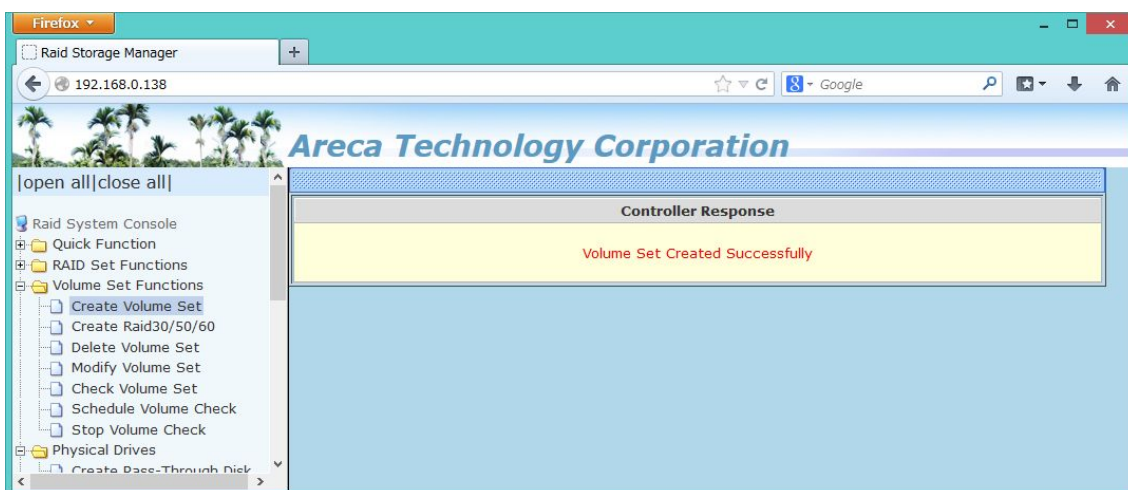
elect Volume Capacity が 900 となっていることを確認してください。

Greater Than Two TB Support は将来の拡張の為 ON としています。

※ 通常は 64bit LBA を設定してください。 4K Block は特殊な事例となります。

SCSI Channel:SCSI ID:SCSI Lun 0 0 1 となっていることを確認

Confirm The Operation にチェック後 submit



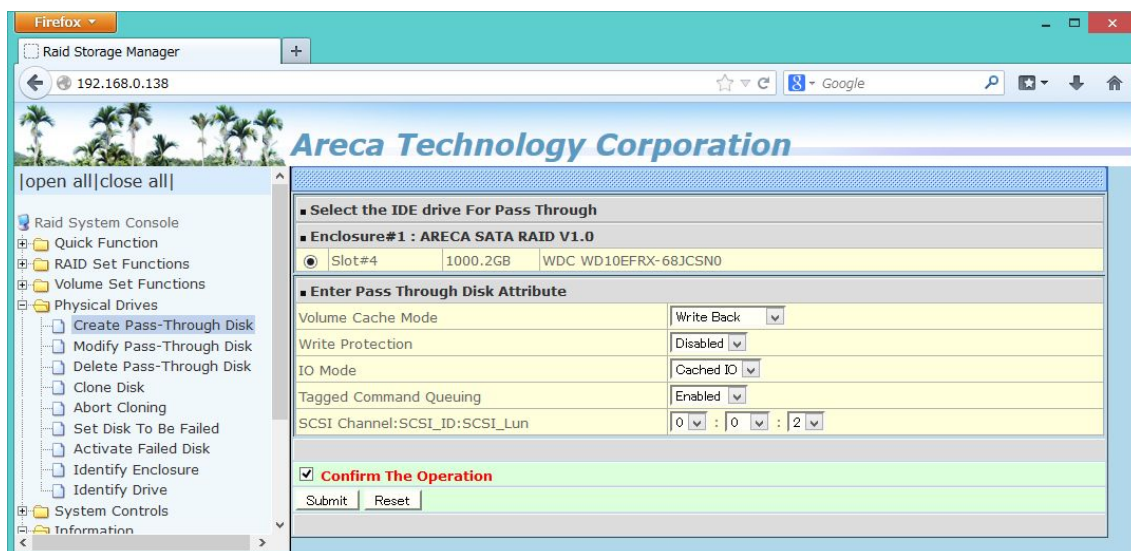
これで、Volume Set Function での設定は完了となります。

次に Pass-Through Disk を設定します。

Physical Drives > Create Pass-Through Disk

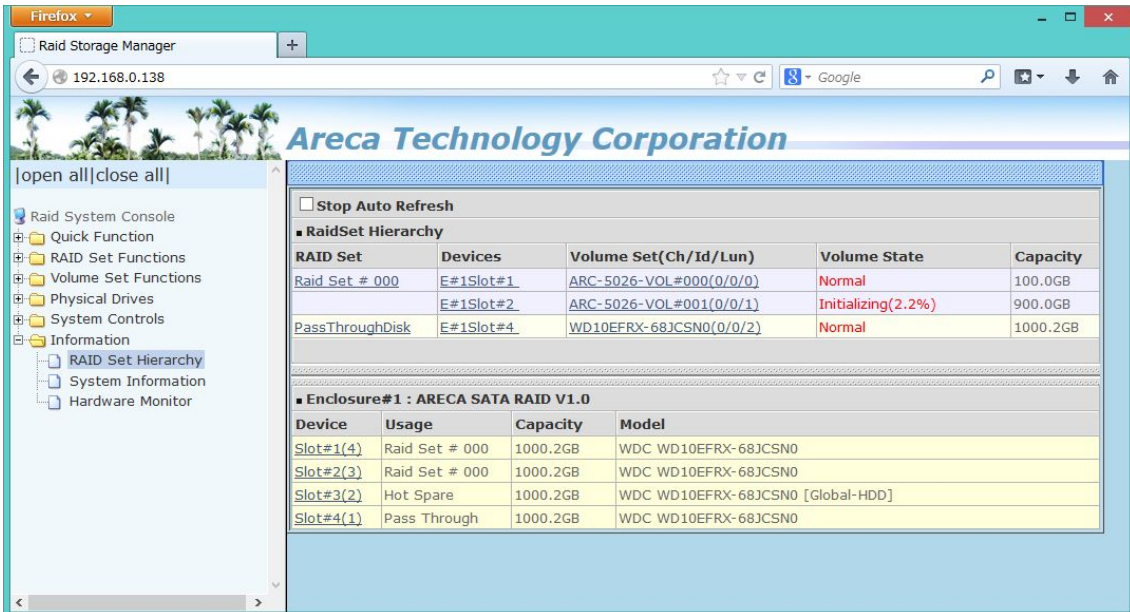
下記のような設定(SCSI ID を 1 に変更)にし、Confirm The Operation にチェック後 submit

※ SCSI Channel:SCSI_ID:SCSI_Lun 0 0 2 となっていれば OK



これで、Pass-Through Disk の設定は完了となります。

Information > RAID Set Hierarchy



RAID Set	Devices	Volume Set(Ch/Id/Lun)	Volume State	Capacity
Raid Set # 000	E#1Slot#1	ARC-5026-VOL#000(0/0/0)	Normal	100.0GB
	E#1Slot#2	ARC-5026-VOL#001(0/0/1)	Initializing(2.2%)	900.0GB
PassThroughDisk	E#1Slot#4	WD10EFRX-68JCSN0(0/0/2)	Normal	1000.2GB

Device	Usage	Capacity	Model
Slot#1(4)	Raid Set # 000	1000.2GB	WDC WD10EFRX-68JCSN0
Slot#2(3)	Raid Set # 000	1000.2GB	WDC WD10EFRX-68JCSN0
Slot#3(2)	Hot Spare	1000.2GB	WDC WD10EFRX-68JCSN0 [Global-HDD]
Slot#4(1)	Pass Through	1000.2GB	WDC WD10EFRX-68JCSN0

Initializing が 100% になりますと、Volume State は Normal となり完了となります。

一つの RAID Set 内に複数の Volume を作成した場合は、同時に Initializing は行われず、順次行われていきます。

また RAID0 は Initializing を行いません。

さらに RAID0 には Hotspare 設定自体は可能ですが、冗長性のない RAID Level ですのでその設定自体が意味を成しません。 RAID1 以上で割り当ててください。

将来 Pass-Through Disk を解除し、RAID Set に組み込む場合は、ExpandRaidSet 機能を使い増備することも可能です。

事前に Backup をしたほうが望ましいので、今回は説明を省かせていただきます。

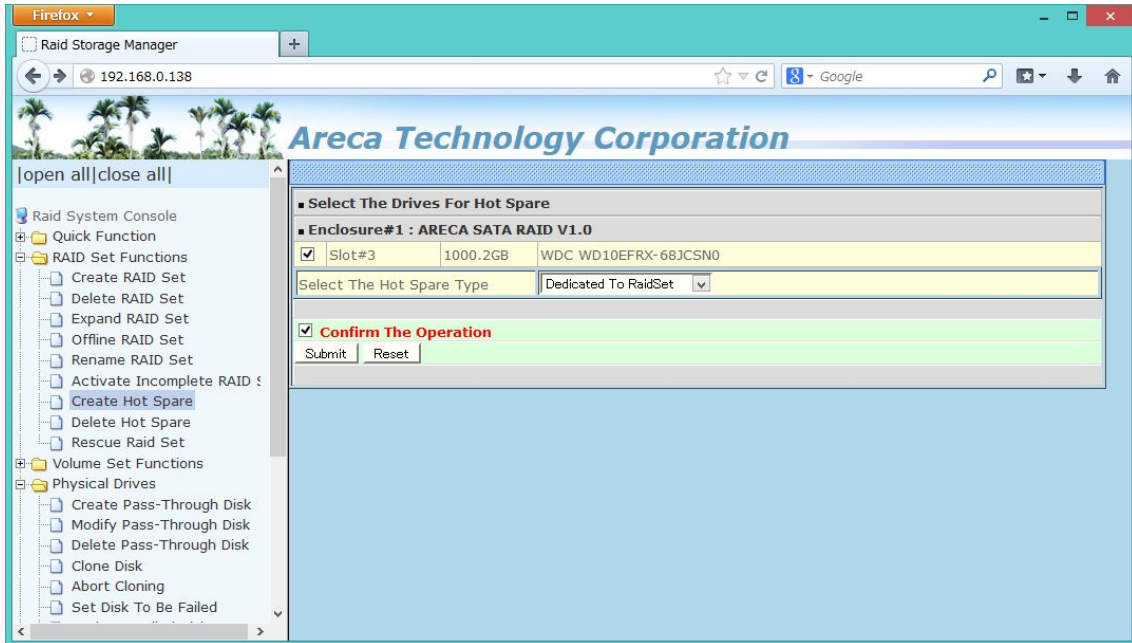
以上で手動による複数 RAID Volume 構築は完了となります。

RAID の構築が完了した後は、Volume State が Normal になっていることを確認してください。

Hotspare についての追加説明

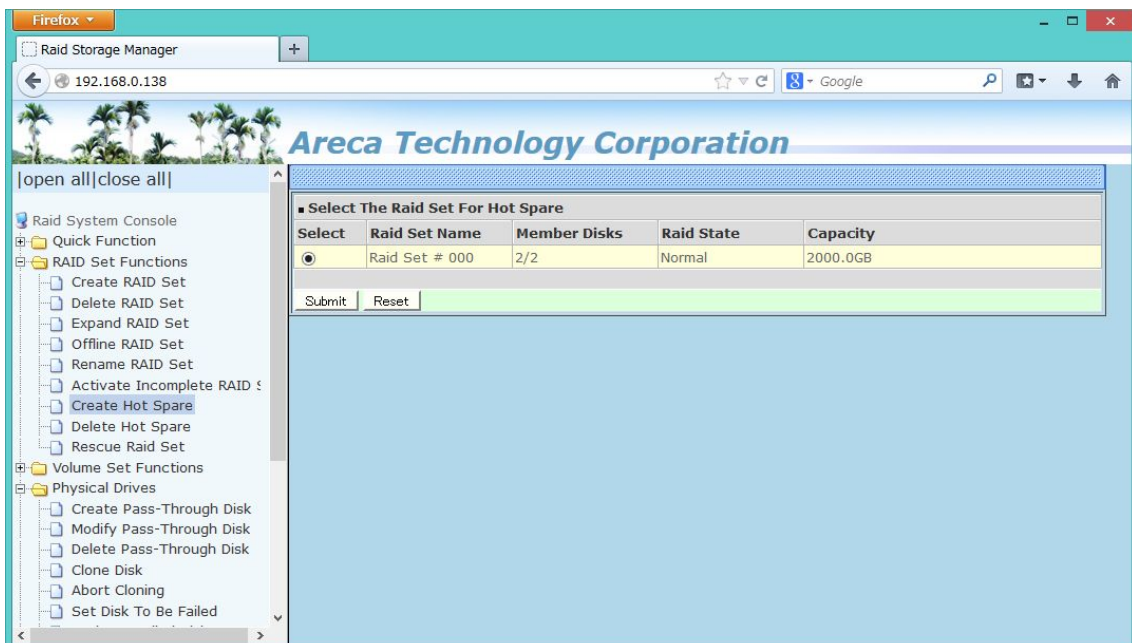
RaidSet 単位で Hotspare を組みたい場合は、Dedicated To RaidSet を選択します。

例 再び RAID Set Functions > Create Hot spare

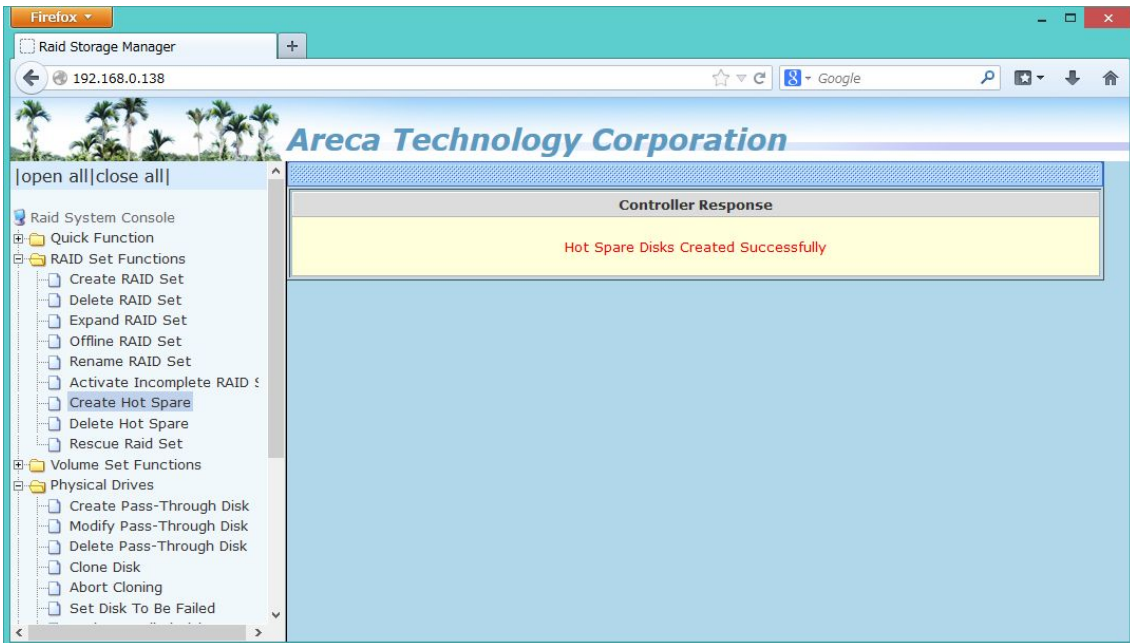


Slot3 にチェック Select the Spare Type Dedicated To RaidSet を選択

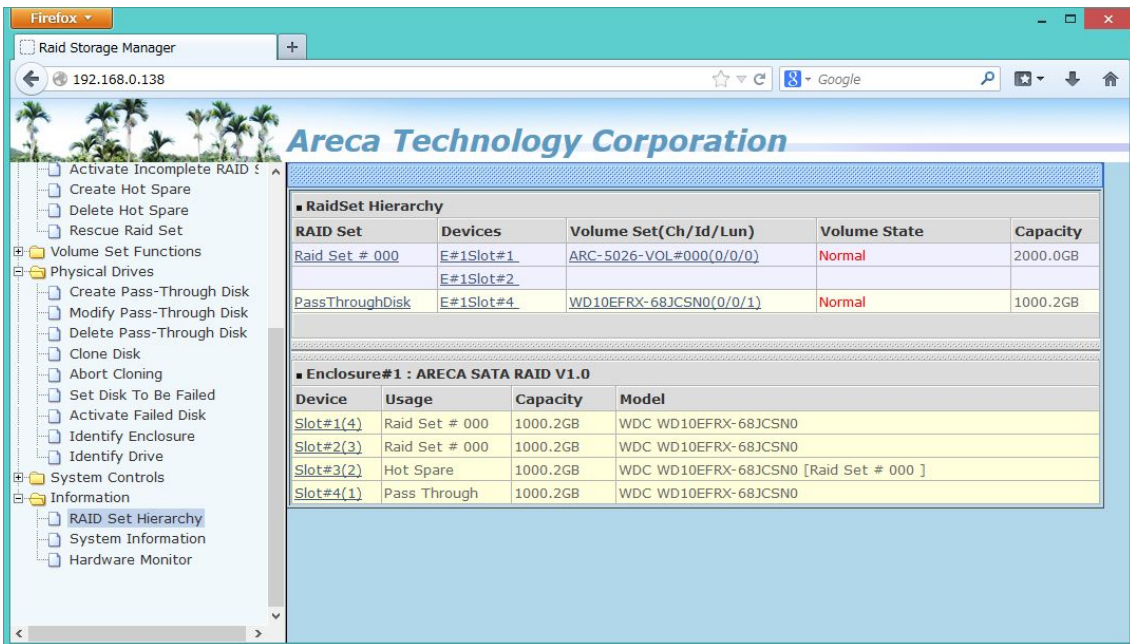
Confirm The Operation にチェック後 submit



Raid Set #001 のラジオボタンを選択し submit



Information > RAID Set Hierarchy



Hotspare に割り当てた Disk が 上記のようになっていれば設定完了です。

追記した参考設定の案内を終了します。

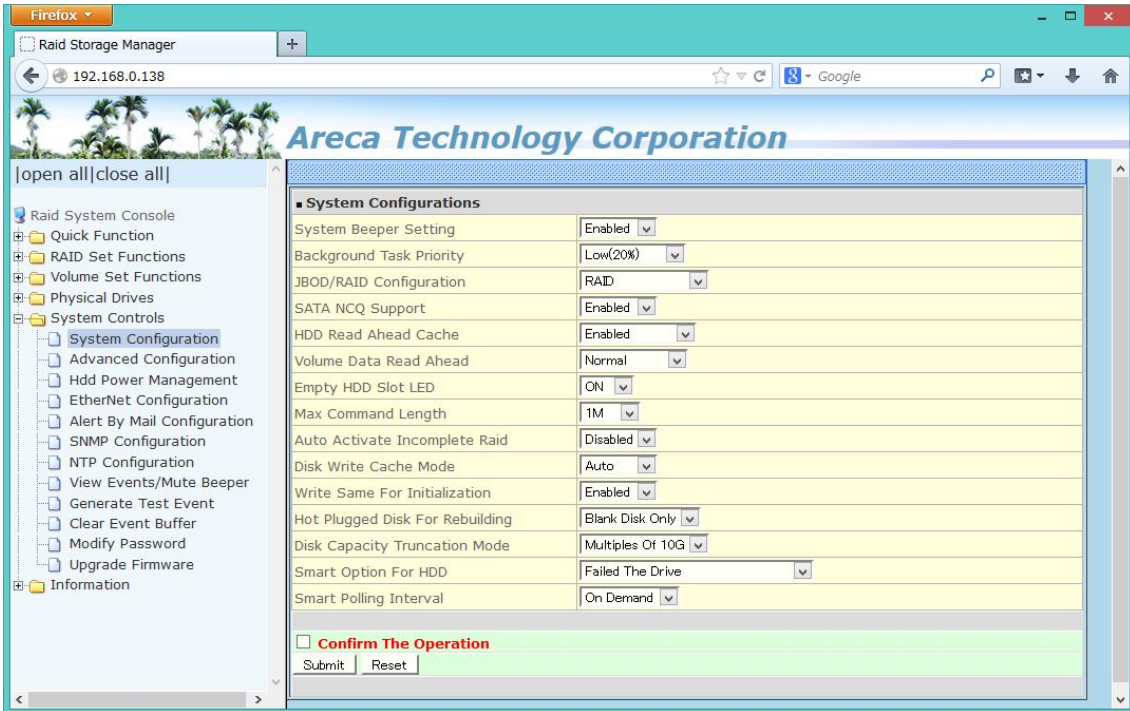
■ 項目 8. RAID ユニットの設定。

基本的には設定の必要がある項目ではありませんが、参考程度にご覧ください。

設定として必要な箇所を抜粋して説明いたします。

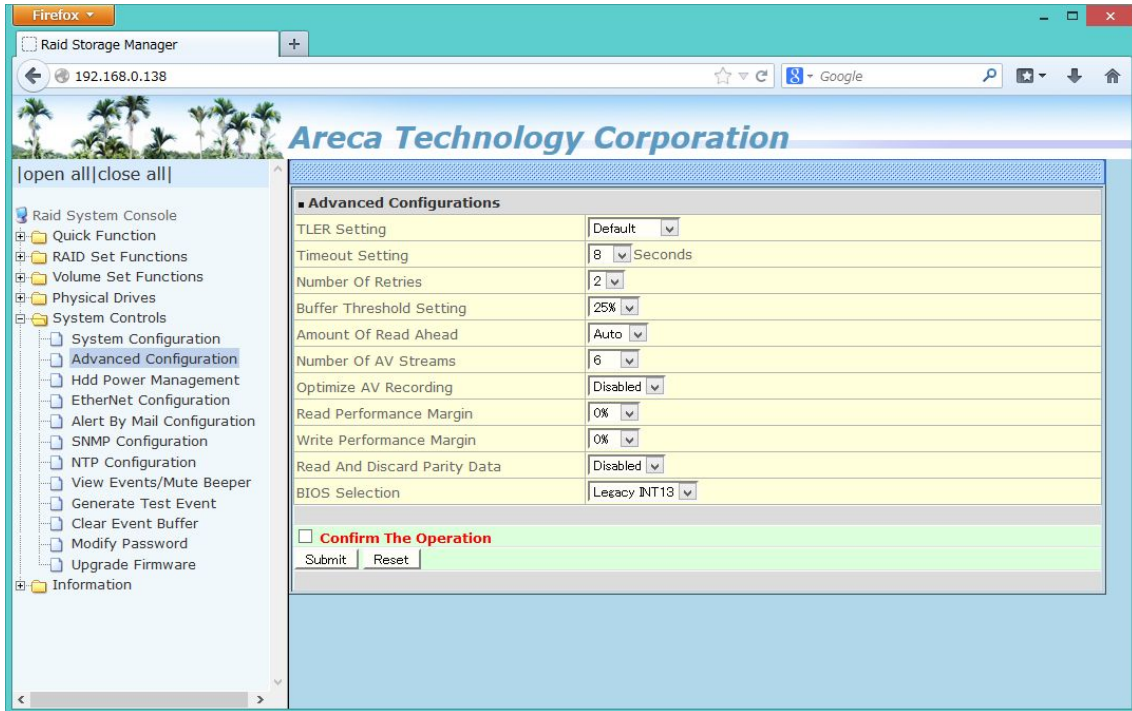
※デフォルト値で最適化されておりますので特殊な事例を除き変更する必要はありません。

System Controls > System Configuration



System Beeper Setting	:	異常時のブープ音を発生させるか？
Background Task Priority	:	再構築時の Task に対する CPU の優先度
JBOD/RAID Configuration	:	単体でご利用になるか RAID で使うか？
HDD Read Ahead Cache	:	HDD に対しキャッシュによる予測をするか？
Volume Data Read Ahead	:	予測の深度
Disk Capacity Trucation Mode	:	構築時の最適化単位 デフォルトでは 10GB

System Controls > Advanced Configuration



重要な BIOS Selection の項目のみ解説します。

BIOS Selection : 起動時の BIOS モードを選択します。

BIOS 1 : レガシー + UEFI > EFI を使用することはできません

BIOS 2 : レガシー + EFI > UEFI を使用することはできません。

Legacy INT13 選択された場合

BIOS 1 BIOS 2 のいずれかを使用します。

UEFI 選択時は、BIOS 1 が使用されます。

EFI 選択時は、BIOS2 が選択されます。

基本的には、Default の Legacy INT13 ですべての環境でご利用になれます。

問題が発生した場合のみ、下記を参考に環境に合わせた設定をお試しください。

USB3.0 を利用する場合は、必ず Legacy INT13 に設定してください。

ThunderBolt の場合には、環境に合わせて設定してください。

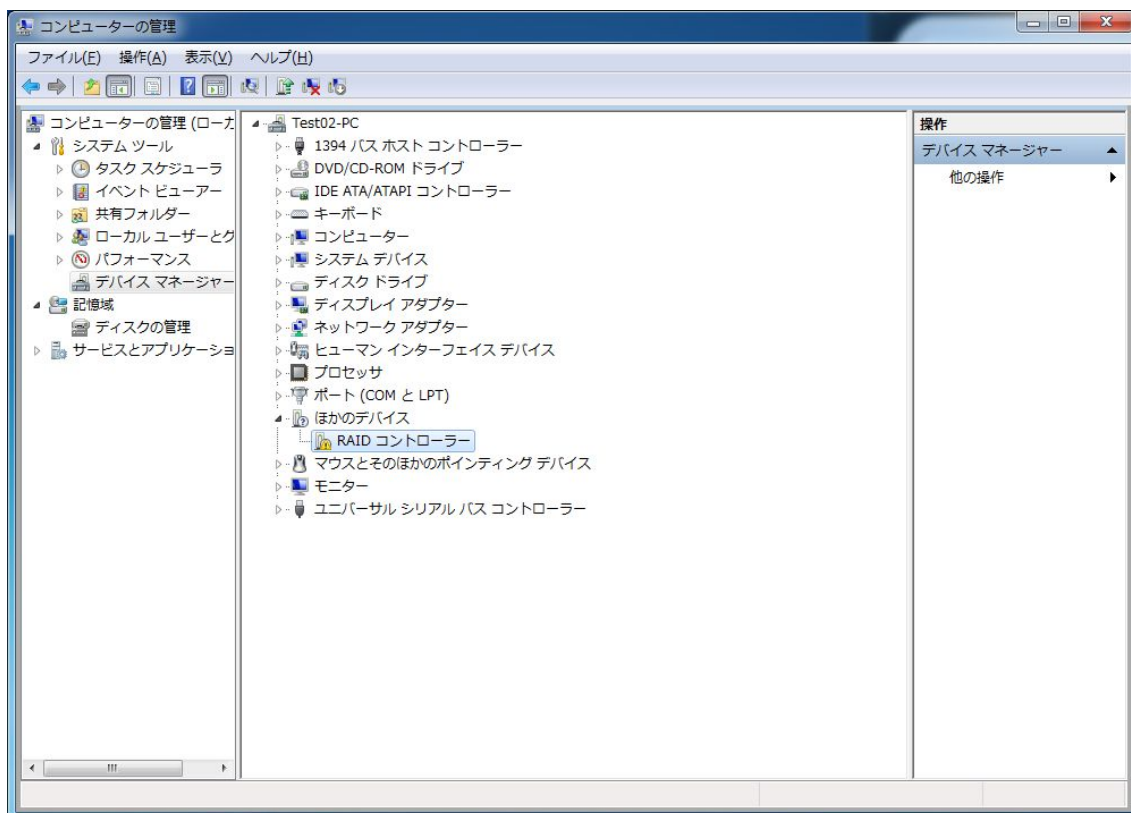
IntelMAC をご利用の場合には、EFI ないしは、Disabled を設定してください。

Windows 環境で UEFI インストールをおこなった環境で、ThunderBolt 接続を実施している場合 Legacy INT13 ですと正常にブート領域を読み取ることができずエラーとなることがあります。この場合は、UEFI を選択するか、Disabled に設定してください。

■ 項目 7-1. 製品 Driver のインストールとパーティションの作成 for Windows

- ※ 本説明では、Windows 7 にて説明を行っております。
- ※ USB3.0 接続時は、製品(ARC-5028)Driver のインストールは必要ありません。
安定し動作しない場合は、USB3.0 ポートの
USB パワーマネジメント機能を無効化にしてください。
- ※ マザーボードないしは、インターフェースの USB3.0 driver は事前に
インストールを完了してください。
- ※ USB3.0 でご利用の場合で上記確認が完了したら項目 6 に飛んでください。

スタート > コンピュータ "右クリック" > 管理 > コンピュータの管理 >
デバイスマネージャー を選択



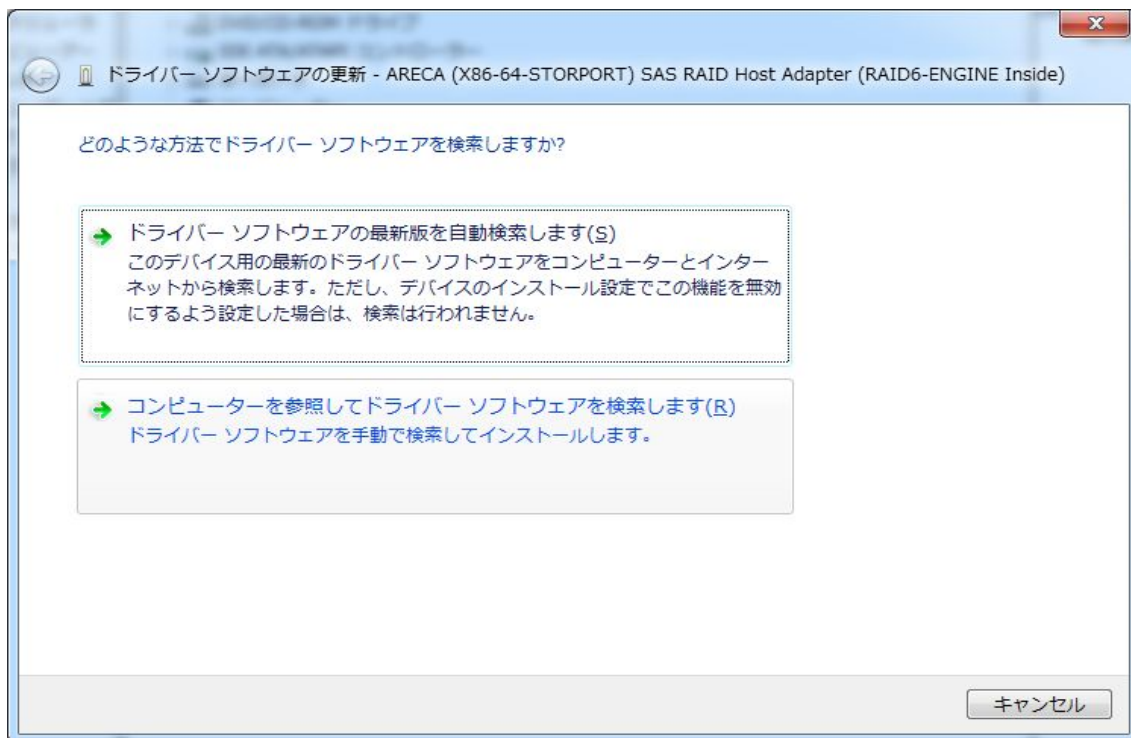
正常に接続されておれば、上記のようにほかのデバイスの項目に本製品は表示されます。

Driver のインストールを行っていきます。

本製品は、StorPort 用 Driver を使用します。

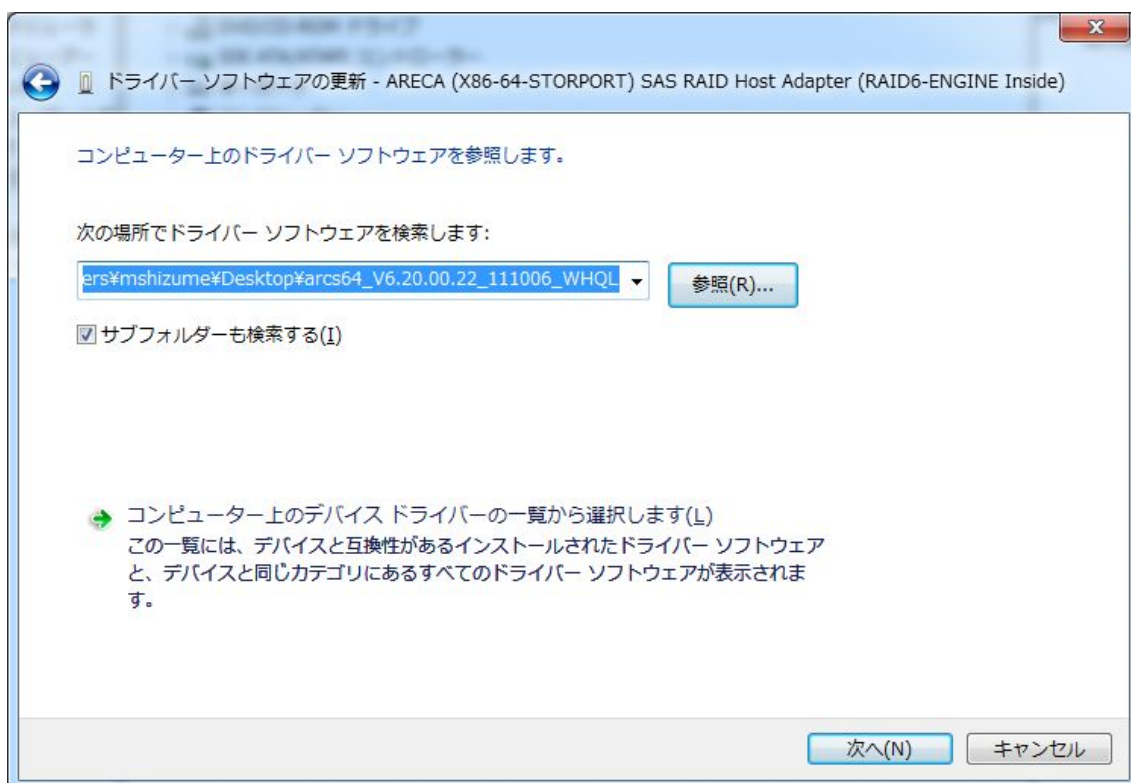
- ※ Windows に関しては、RAIDcard の Driver を使用します。

コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します をクリック

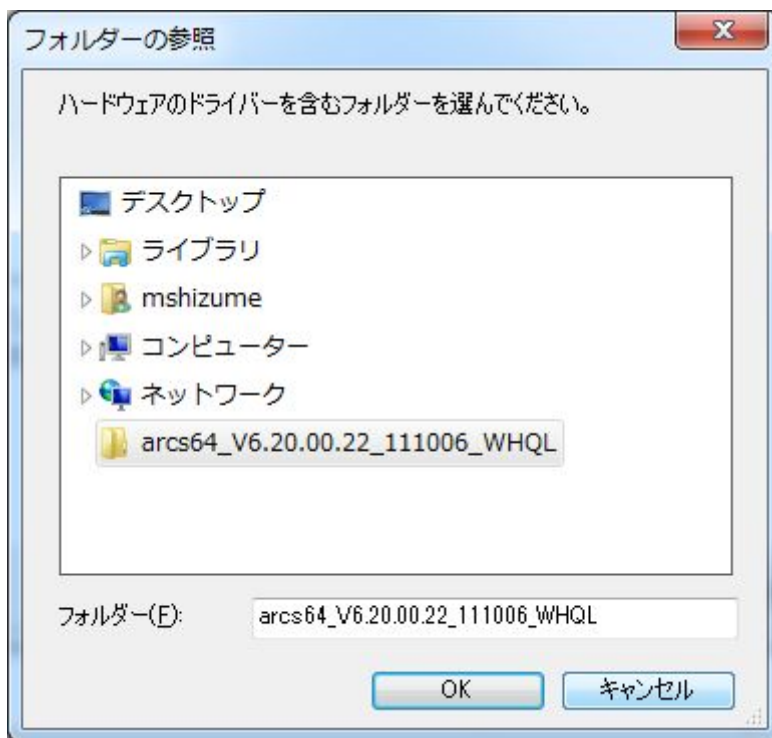


デスクトップにあらかじめ Driver をダウンロードし、参照をクリック

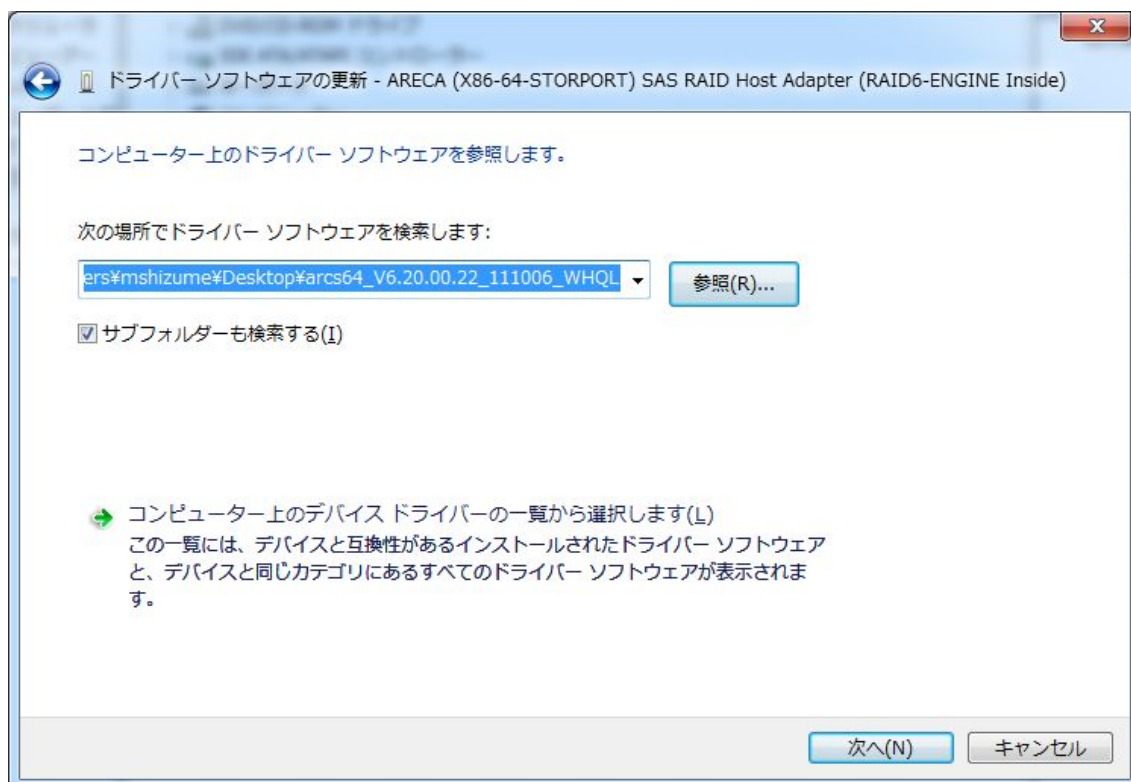
※ 解凍は実施しておいてください。



OK をクリック



次へをクリック



必要な Driver が自動でインストールされますので OK ないしは完了をクリック。

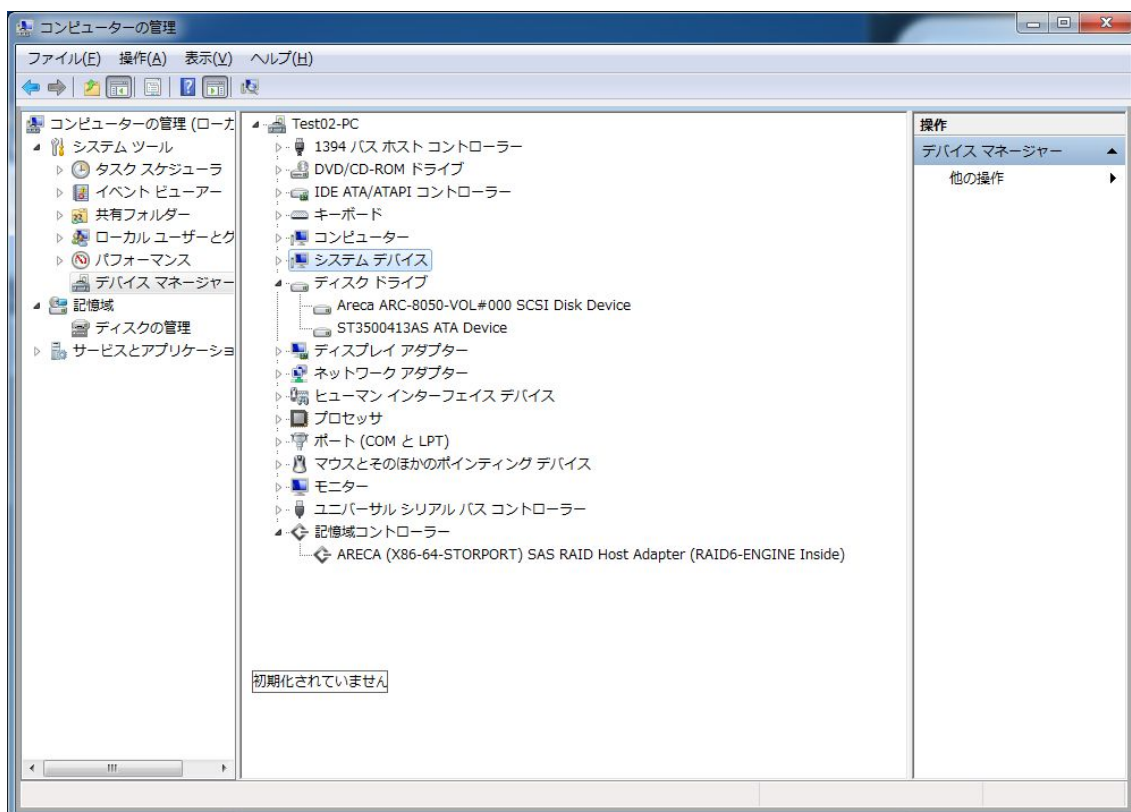
インストールされた Driver を確認します。

- ディスクドライブ

Drive に設定したすべてのデバイスが存在するか？

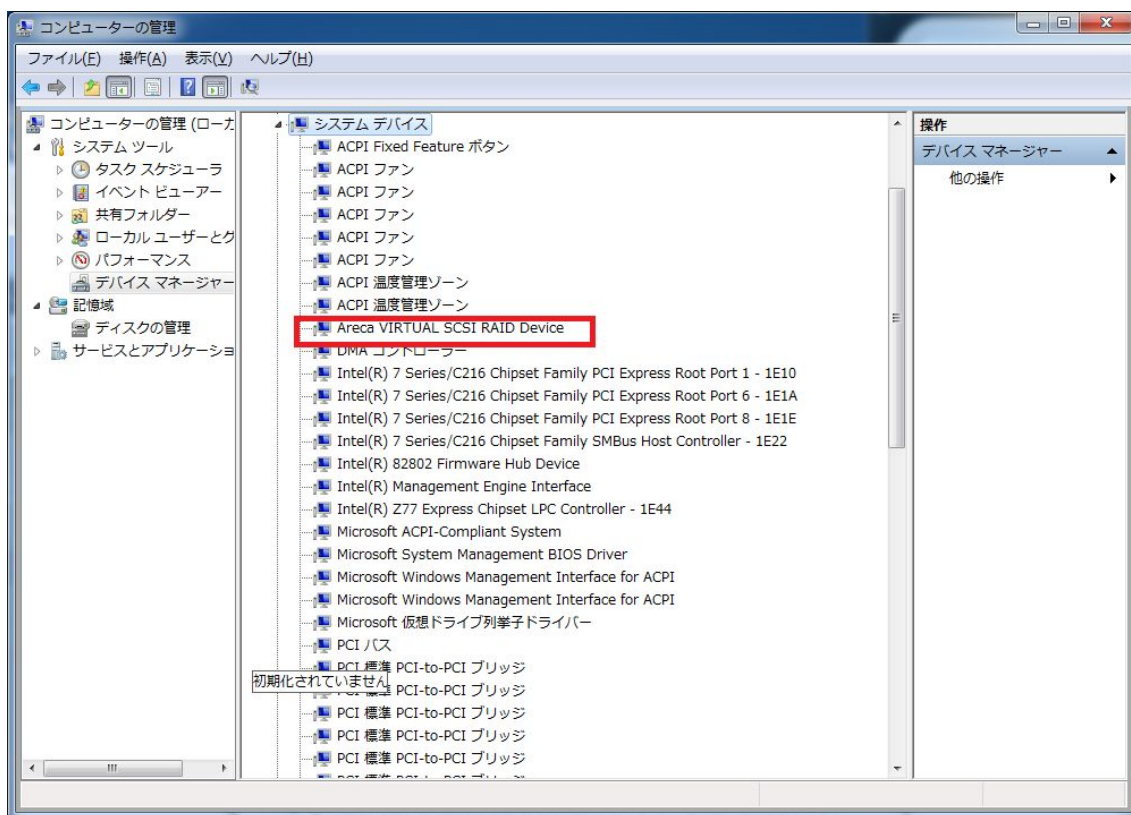
- 記憶域コントローラ

ARECA SAS RAID Host Adapter が存在するか？



- ・システムデバイス

Areca VIRTUAL SCSI RAID Device が存在するか？



上記確認は念のため行っておくと安心です。

これで Driver のインストールは完了となります。

次にファイルシステムを作成します。

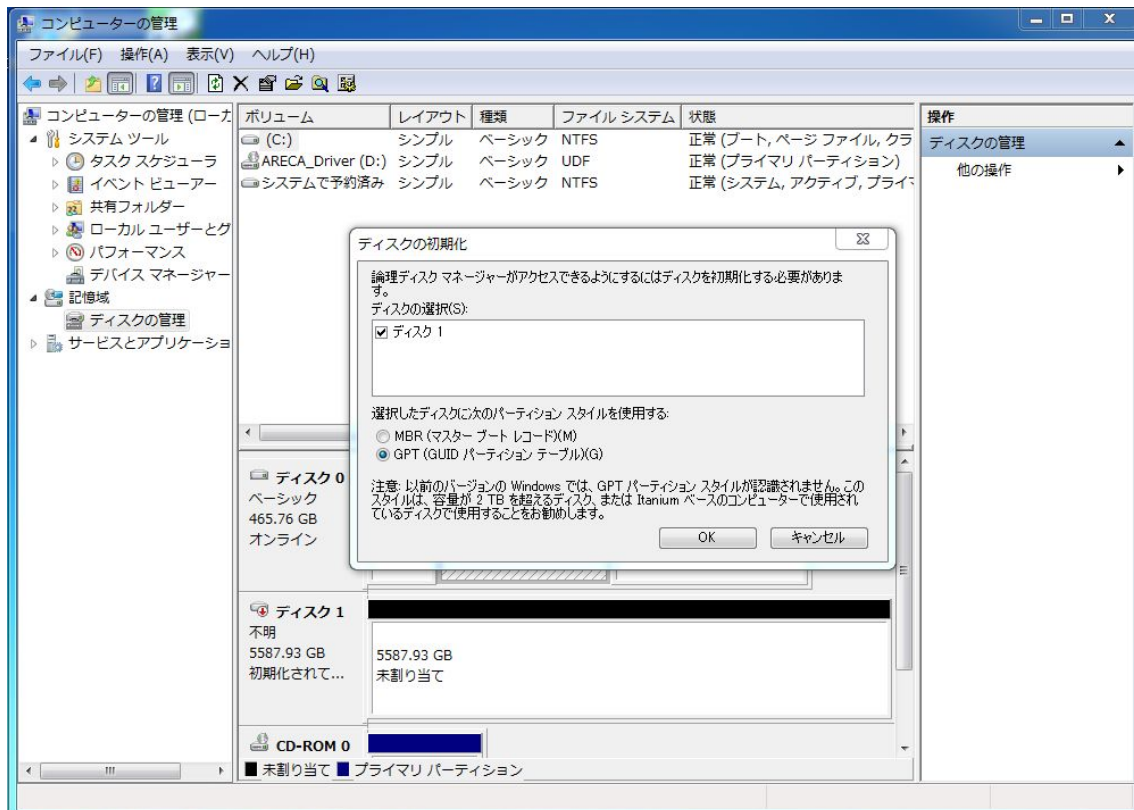
■ 項目 7-2. ファイルシステムの作成

引き続きコンピュータの管理での作業となります。

今度は、 記憶域 > ディスクの管理 をクリックします。

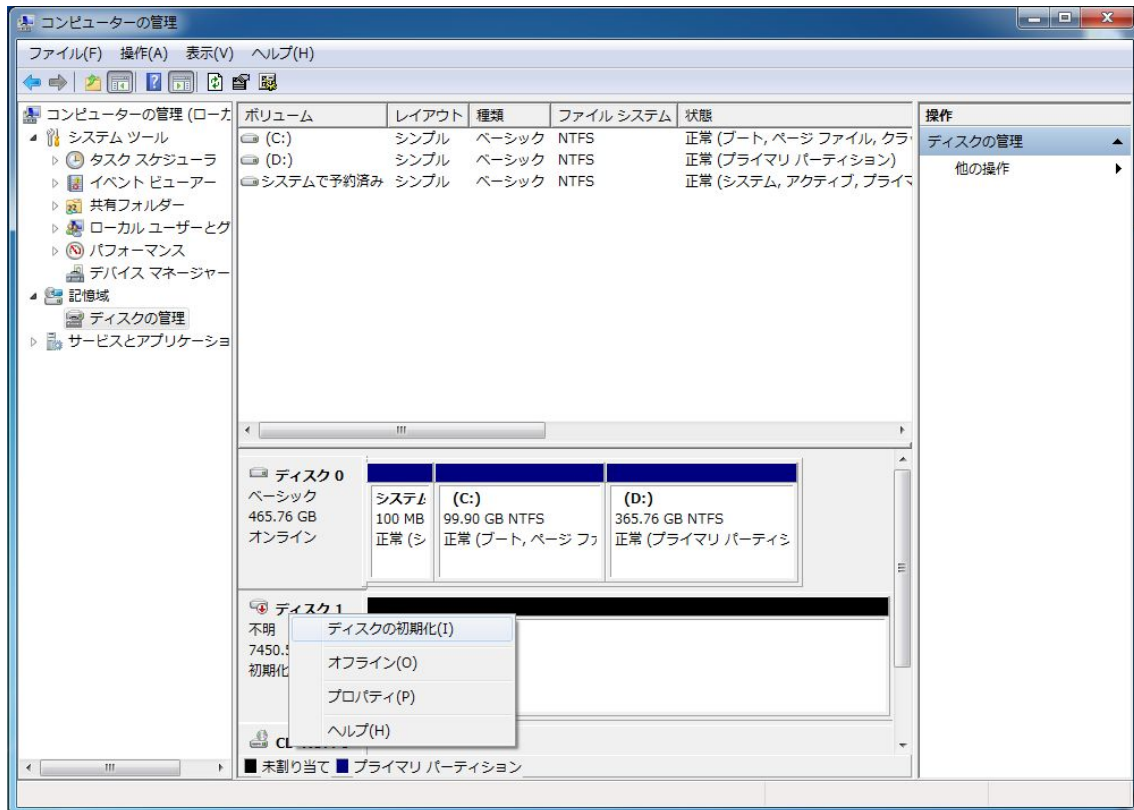
下記のように、通常は自動でディスクの初期化がポップアップされますが、されない場合は、6-1. 手動での初期化手順 に進み 初期化を行ってください。

下記のような画面が出ましたら、6-2. 初期化 に進んでください。



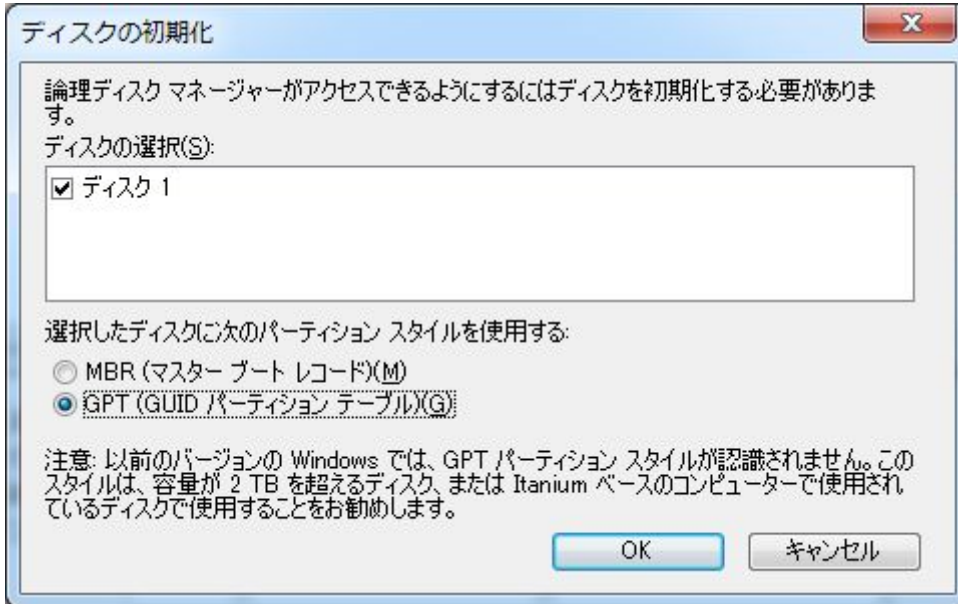
■ 7-3. 手動での初期化手順

不明のディスクのところで、右クリックをし、 ディスクの初期化 をクリック

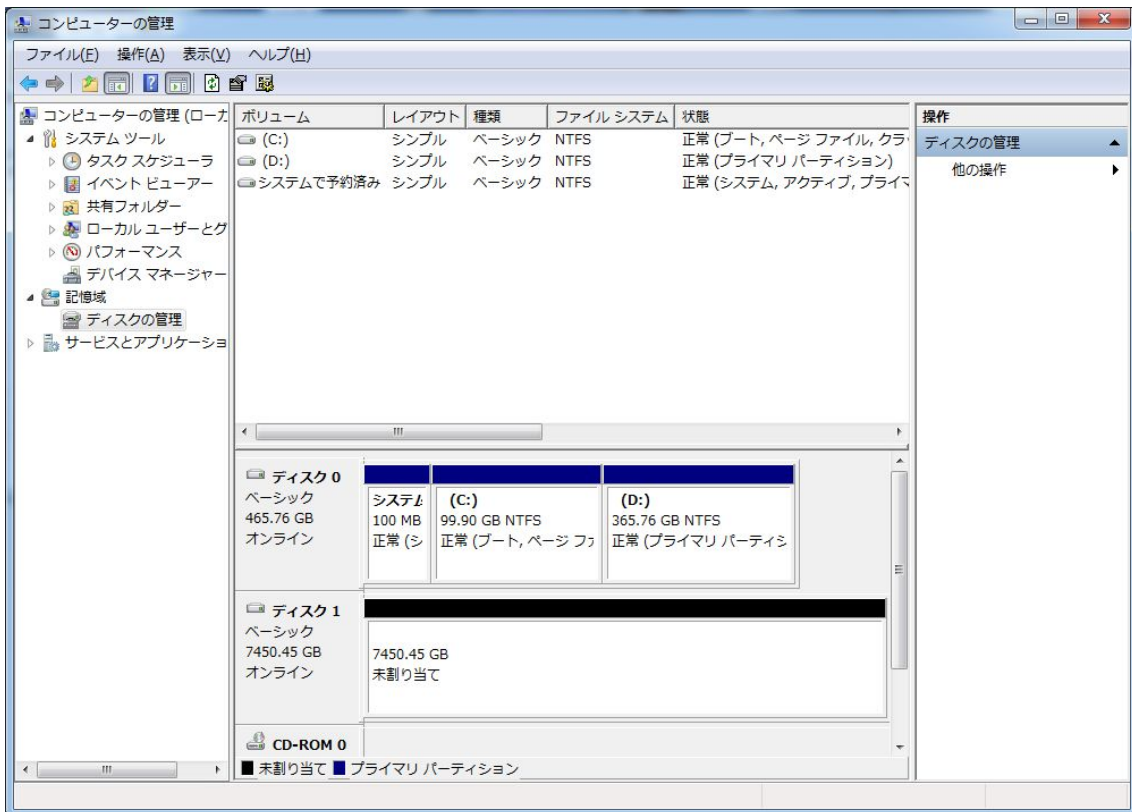


■ 7-4. 初期化

将来実装を考え、下記のように GPT パーティション GPT を選択し OK をクリック

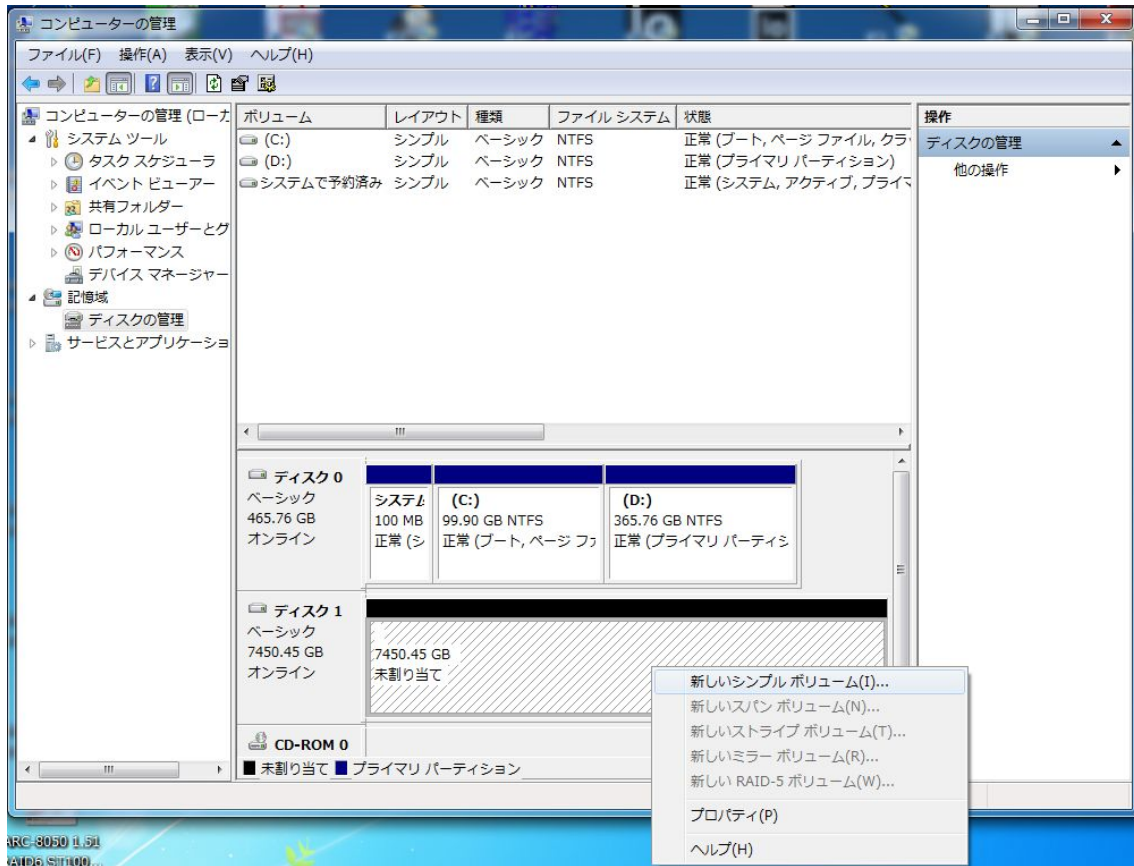


下記のようになります。

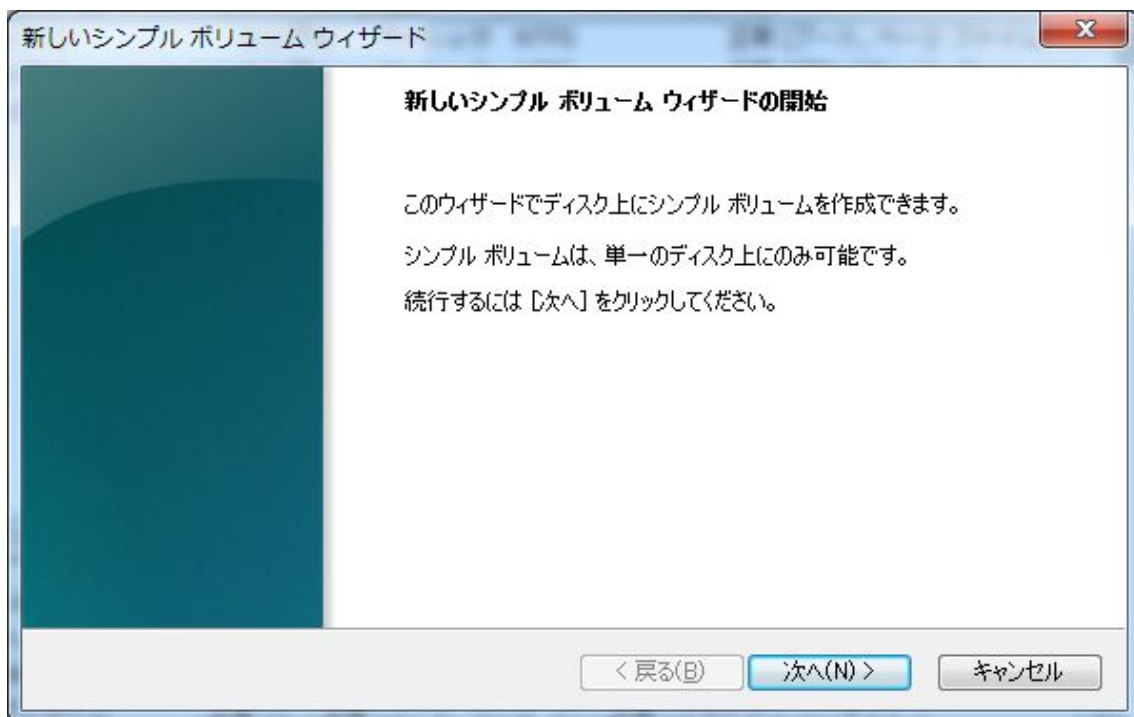


■ 7-5. ファイルシステムのフォーマット

未割当となっている領域上で右クリックをし、新しいシンプルボリューム をクリック



次へをクリック



※パーティションを一つ作成することを前提としております。

パーティションを分割する場合はここで容量を変更し、6-2の操作を繰り返してください。

例。 1TB で切る場合は、 1024x1000(GB)=1024000 となります。

新しいシンプル ボリューム ウィザード

ボリューム サイズの指定
最小サイズと最大サイズの間でボリュームのサイズを選択してください。

最大ディスク領域 (MB): 7629262
最小ディスク領域 (MB): 8
シンプル ボリューム サイズ (MB)(S): 7629262

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

次へをクリック

※ ドライブレターを変更する場合は、 ドライブ文字をクリックし変更

新しいシンプル ボリューム ウィザード

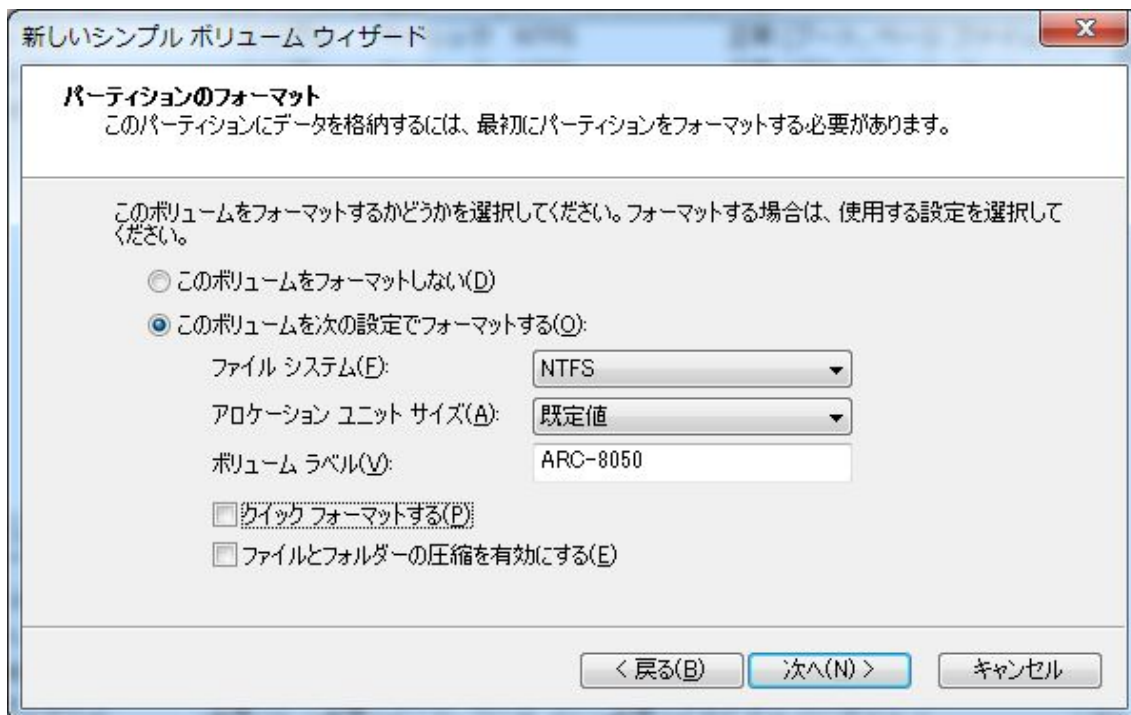
ドライブ文字またはパスの割り当て
アクセスを簡単にするために、ドライブ文字またはドライブ パスをパーティションに割り当てるができます。

次のドライブ文字を割り当てる(A): E
 次の空の NTFS フォルダにマウントする(M): 参照(R)...
 ドライブ文字またはドライブ パスを割り当てない(D)

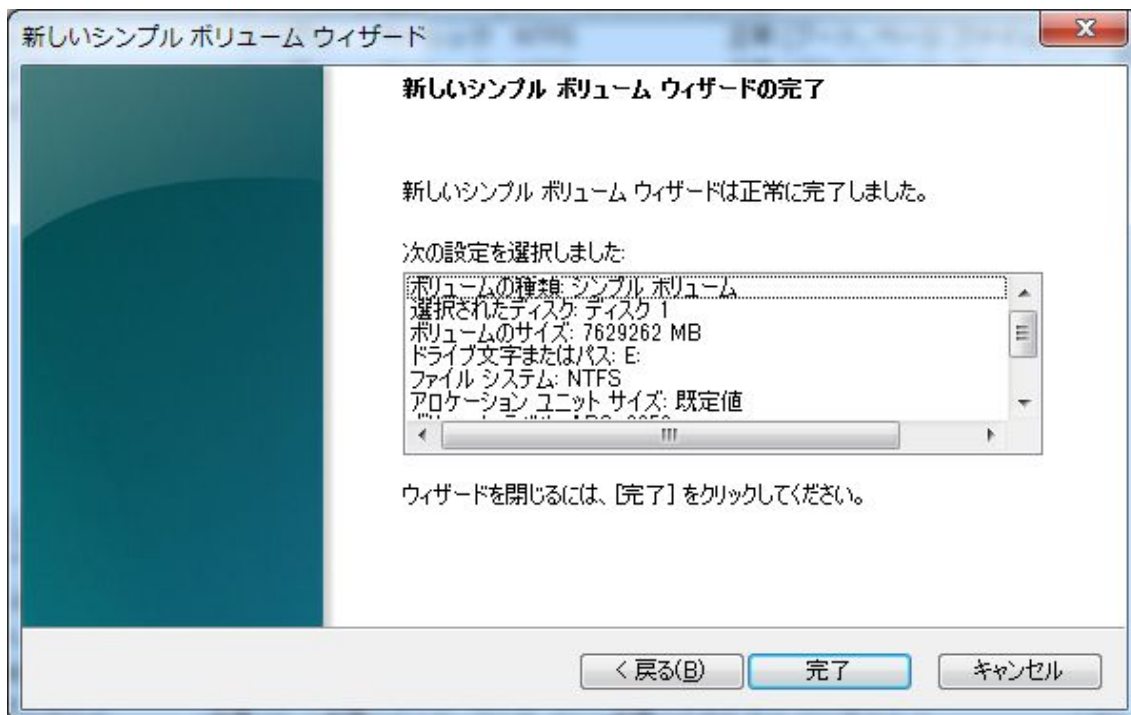
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

次へをクリック

- ※ 画像では意図的にクイックフォーマットをする のチェックを外しております。デフォルトではクイックフォーマットが入っております。
- ※ RAID 構築時に全領域をなめていますのでクイックフォーマットで十分です。



完了をクリック

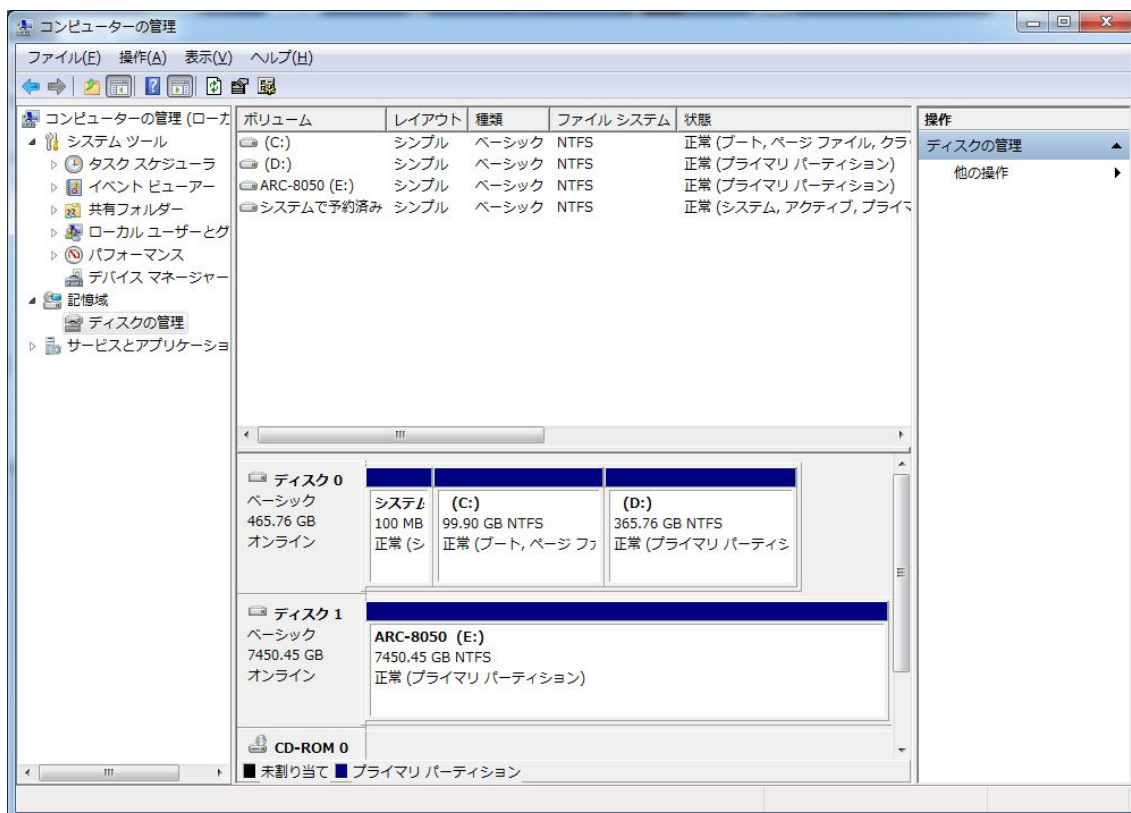


フォーマット中となりますので、完了するまで待機してください。

完了すると、下記のようにウィンドウがポップアップします。



再びコンピュータの画面に戻り下記のようになっていれば完了です。



これでファイルシステムの作成が完了しました。

製品の設定は以上で完了となります。

■ 項目 8-1. 製品 Driver のインストールとパーティションの作成 for MacOS

http://www.kingtech.co.jp/common/products/areca/file/th_mac.zip

からダウンロードをしてください。



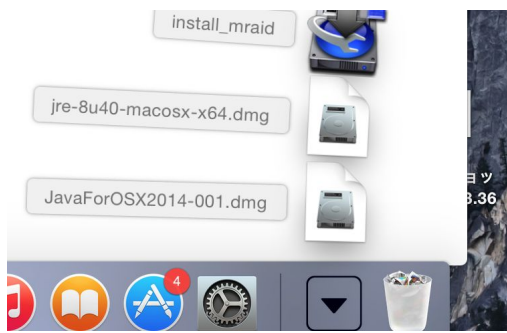
install_mraid ユーティリティが解凍されておりますのでクリックをしてください。



ランタイムエラーとなりますので 詳しい情報を クリック



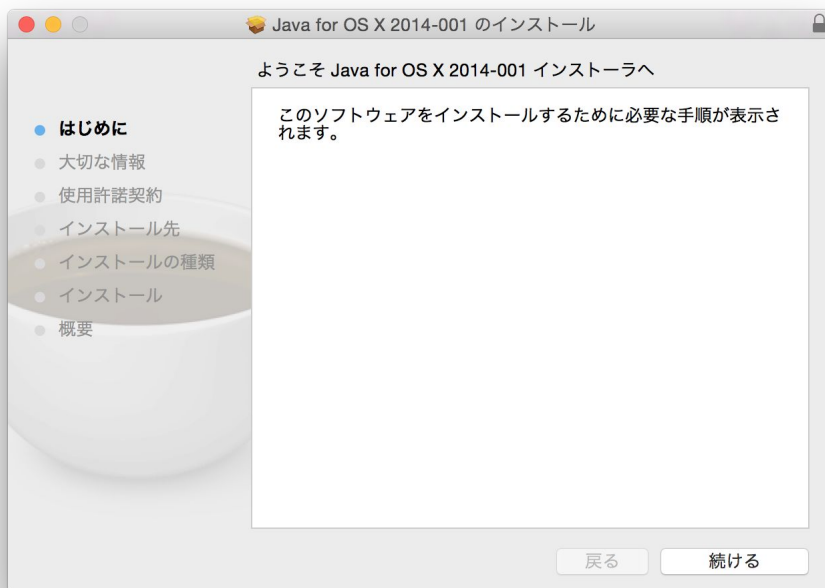
ダウンロードをクリックしてください。



JavaForOSX2014-001.dmg をクリックしてください。



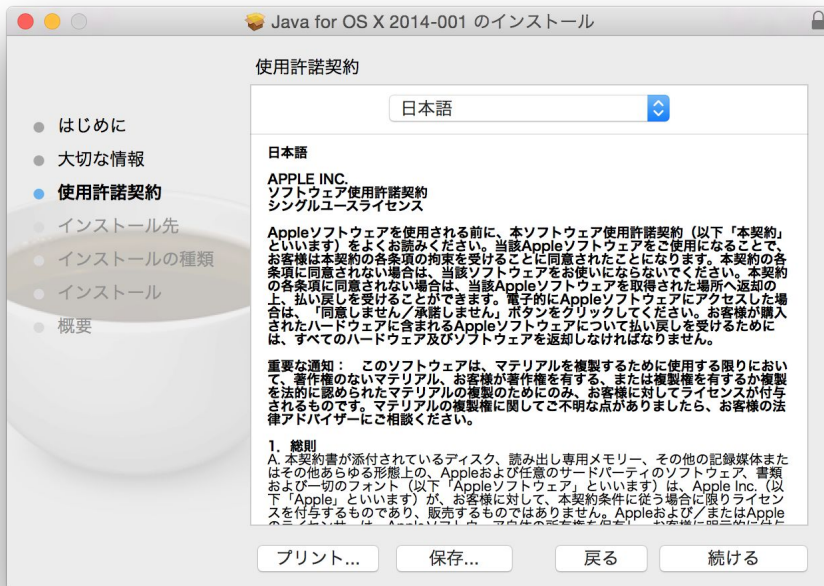
JavaForOSX.pkg をダブルクリックしてください。



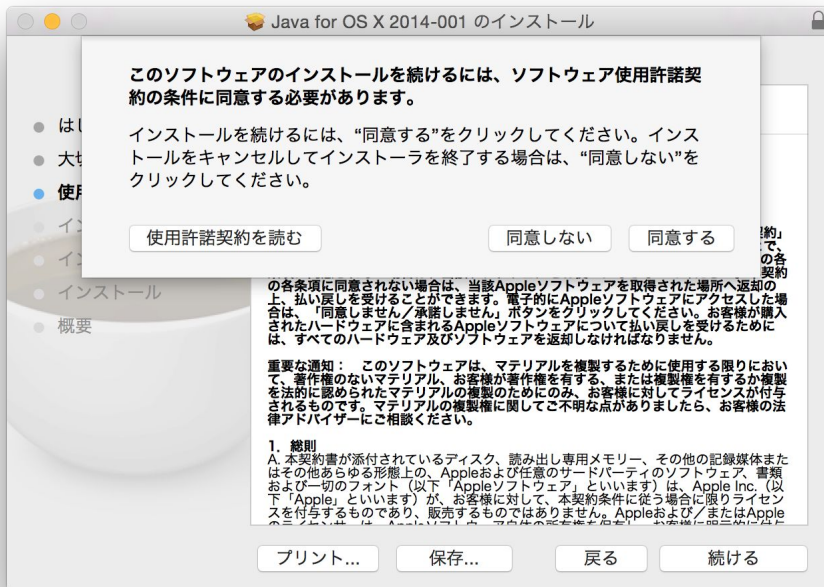
続ける をクリック



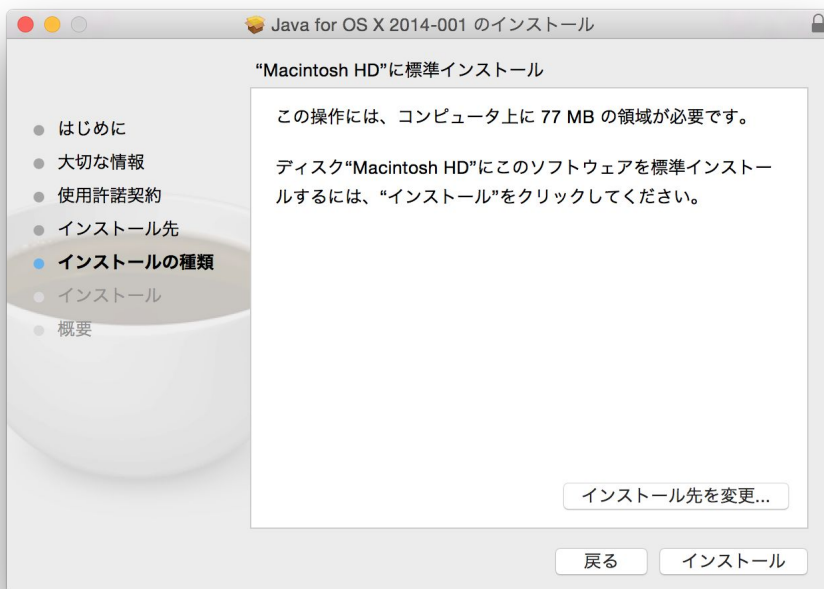
続ける をクリック



続ける をクリック



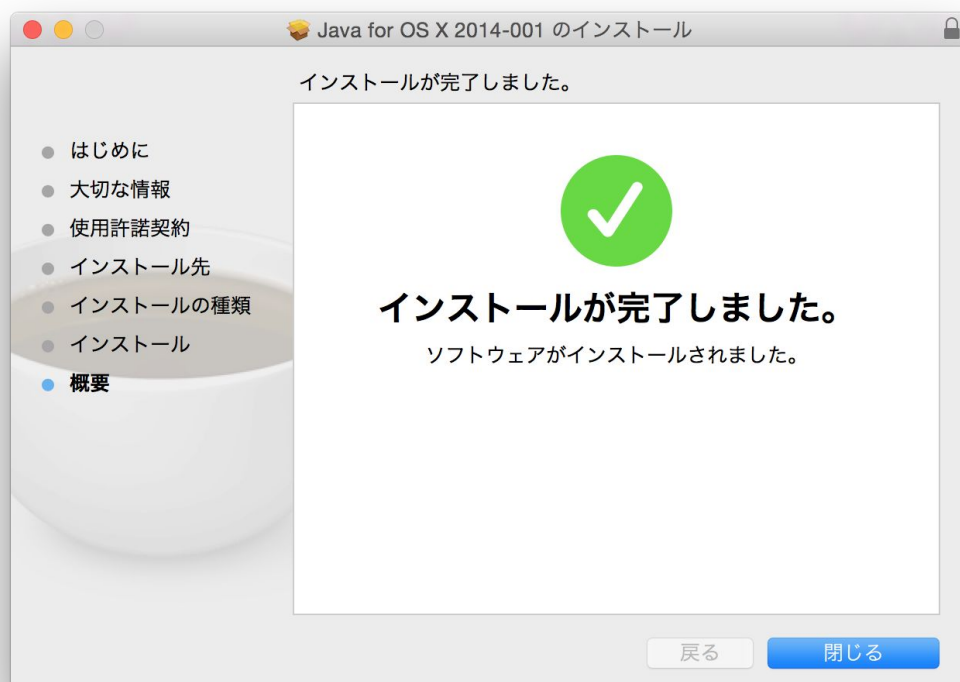
同意する をクリック



インストール をクリック



Root 権限のパスワードを入力し、ソフトウェアをインストール をクリック



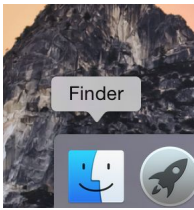
閉じる をクリック



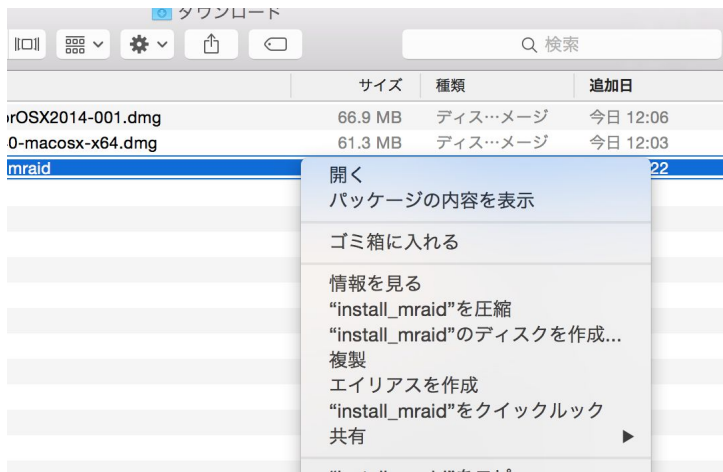
install_mraid をクリック



開発元が未確認の為開けないというエラーが表示される。



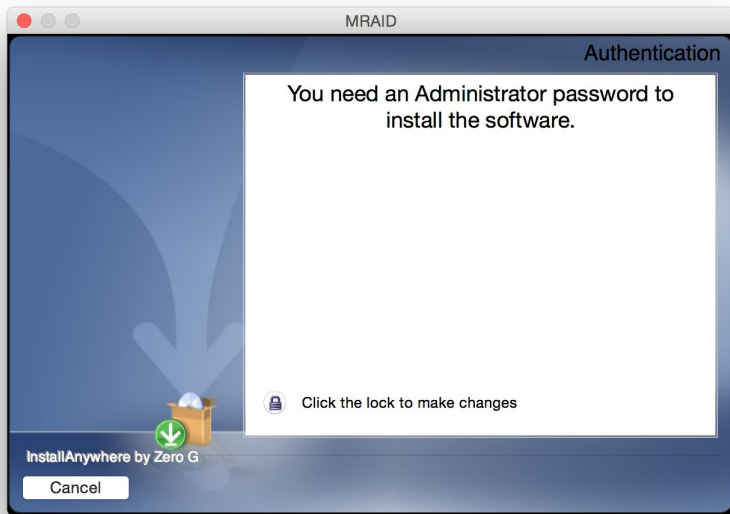
Finder をクリック



ダウンロード をクリックし、開く を選択する。



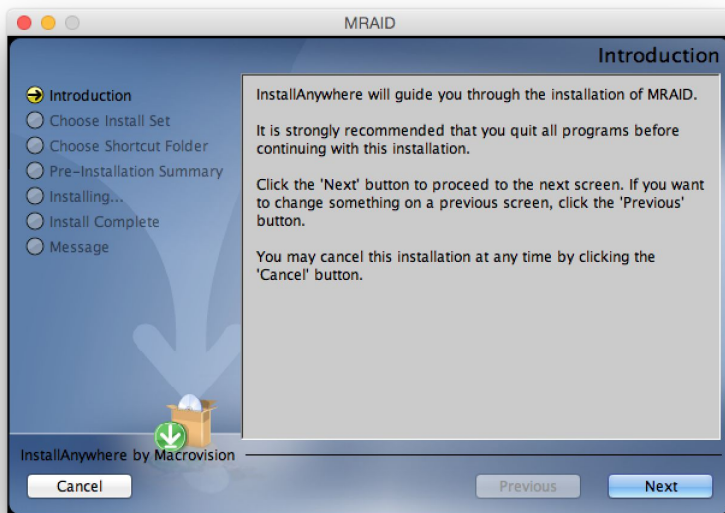
開く をクリック



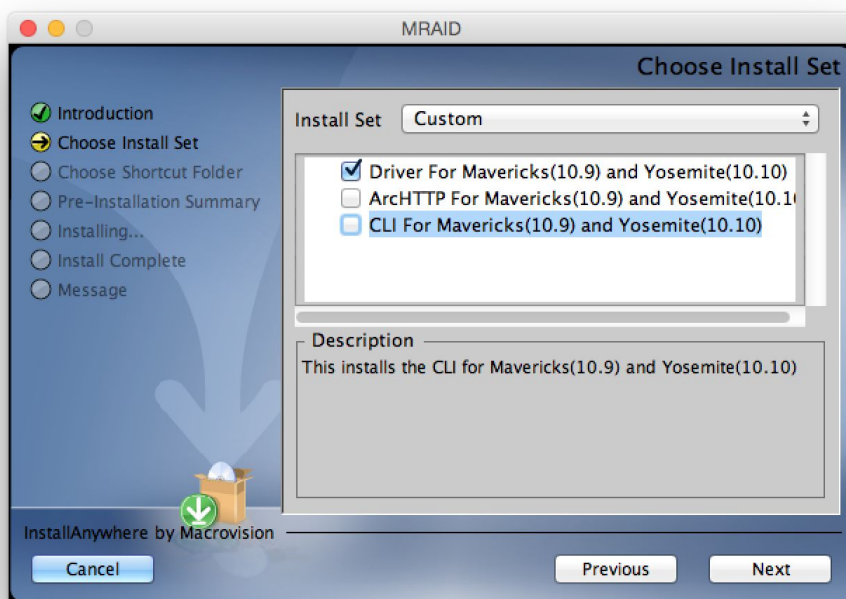
Click the lock to make changes をダブルクリック



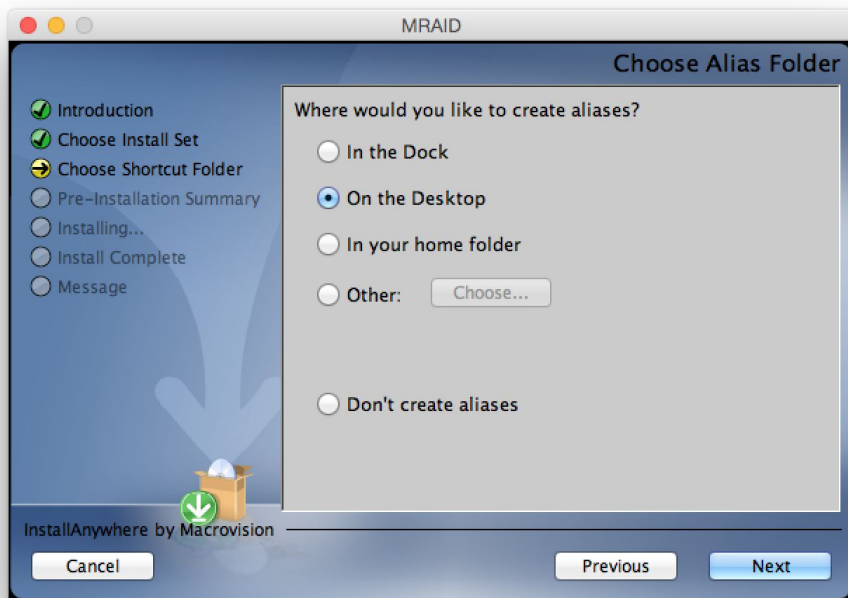
Root 権限のパスワードを入力し、ソフトウェアをインストール をクリック



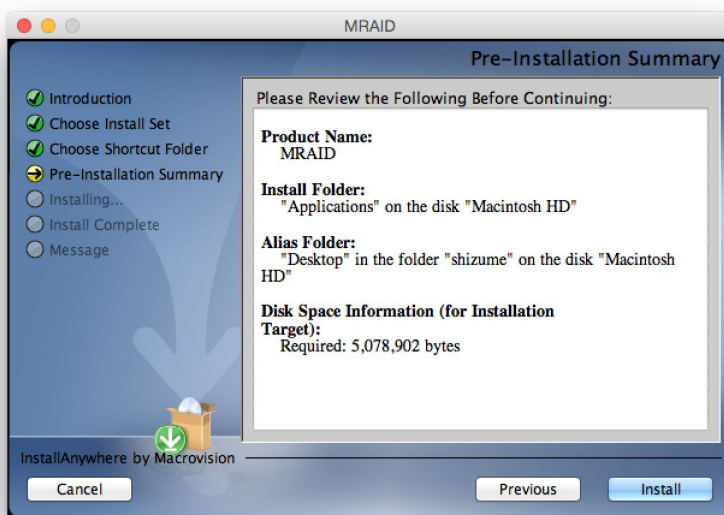
Next をクリック



ArchHTTP と CLI のチェックを外し、 Driver For Mavericks(10.9) and Yosemite(10.10) にだけチェックが入っていることを確認し、 NEXT をクリック
※ArchHTTPはlocalhostでのアクセスとなるため、ループバックの許可等の設定をする必要がある為、本マニュアルではインストールをせず説明をしております。



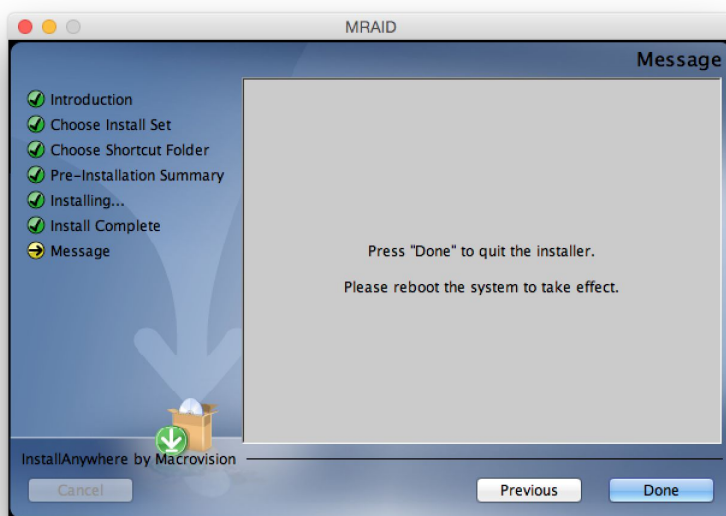
Next をクリック



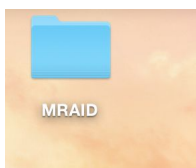
Install をクリック



Next をクリック



Done をクリック



MRAID ができあがりました。 Driver のインストールを実行しただけですのでユーティリティはインストールされておられません。

■ 項目 8-2. パーティションの作成 for MacOS



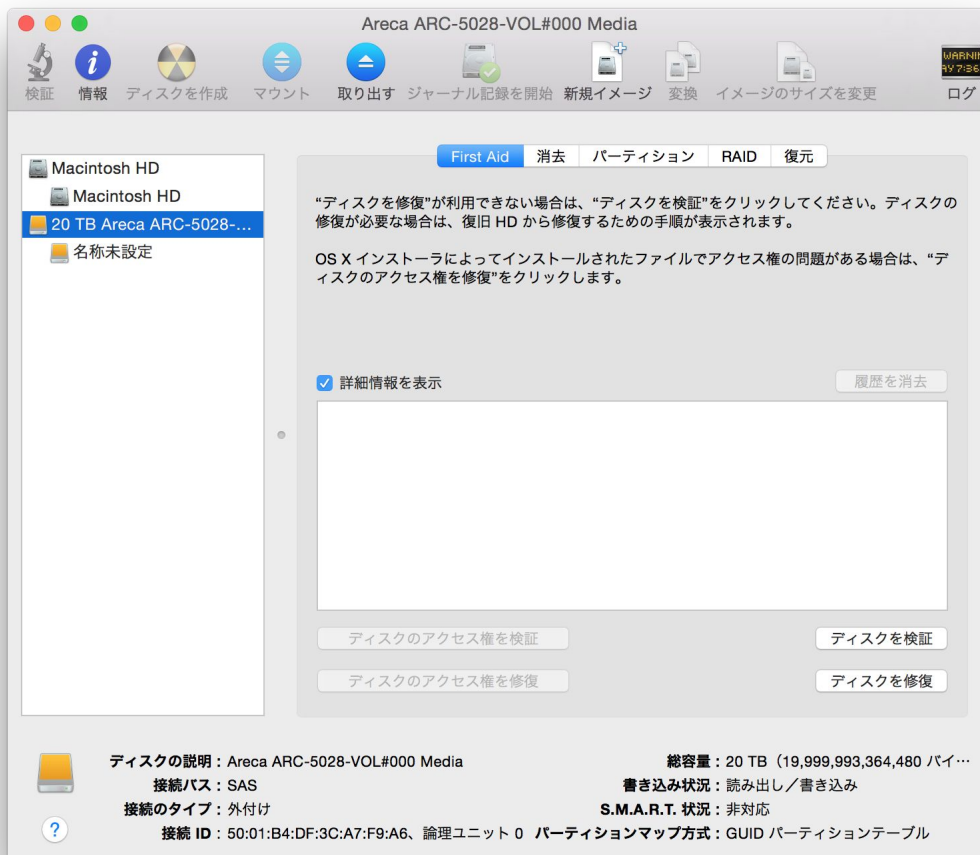
Finder をクリック



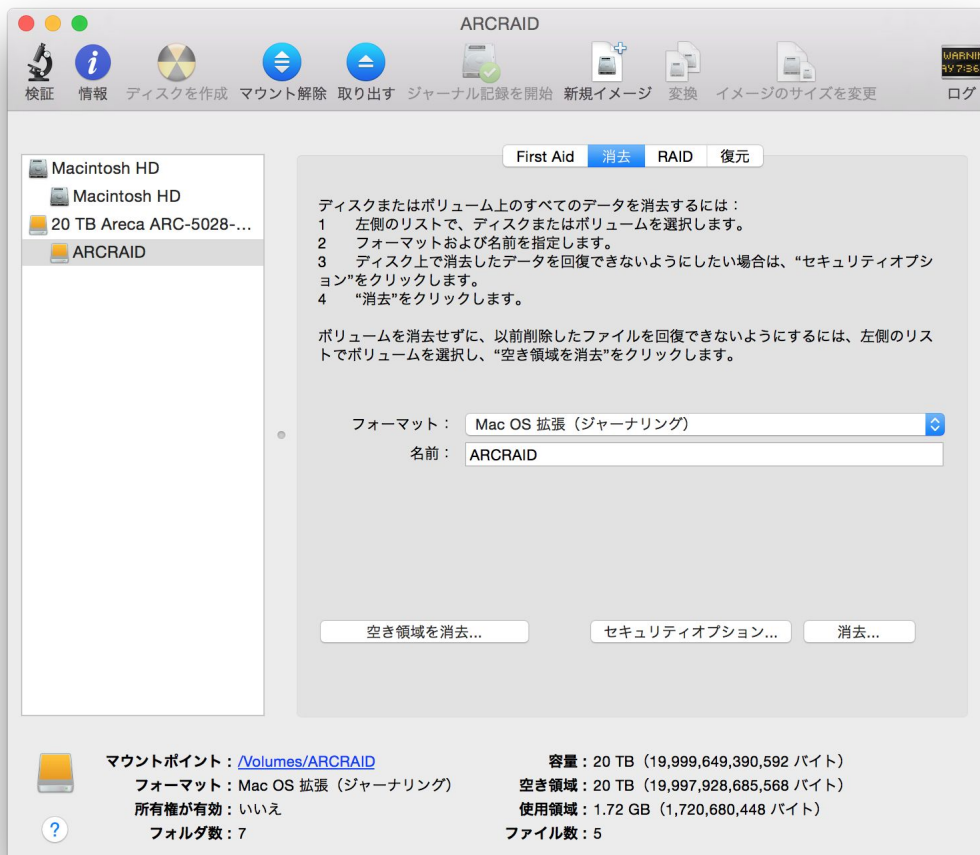
ユーティリティをクリック



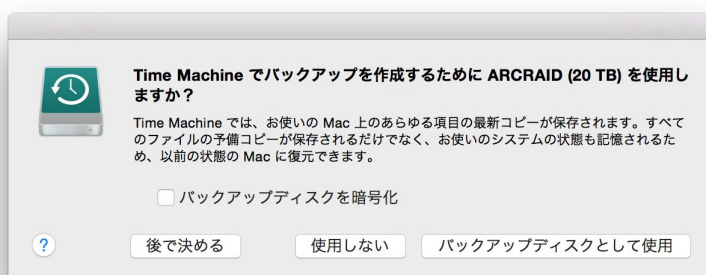
ディスクユーティリティ をクリック



Macintosh HD ではないほうの HDD をクリック し 消去 タブをクリック



名前: に任意の名前を入力 ここでは ARCRAID としております。



任意 でご選択ください。 通常では 使用しない を選択

これでファイルシステムの作成が完了しました。

製品の設定は以上で完了となります。

■ 項目 9. ファームウェアの更新。

ファームウェアのアップデートは大変危険な行為です。製品が正常に動作しなくなるなどの重大な故障になることもあります。保証期間中であっても保証対象外となり、最悪製品じたいの交換となる可能性もあります。本作業を行う際には、そのことに同意していただいたものと判断いたします。

有償にて弊社で作業をおこなっておりますのでお問い合わせください。

本体 FAN 付近の LCD をご確認ください。

Areca Technology

192.168.0.137*

のように表記されておりますので、ここでは 192.168.0.137 としますが、192.168.0.137 の部分に関しては表示されているアドレスを入力してください。

ARC-5028 では出荷時設定は DHCP になっておりますので、DHCP が ON のネットワークの場合には、自動で IP アドレスを取得いたします。

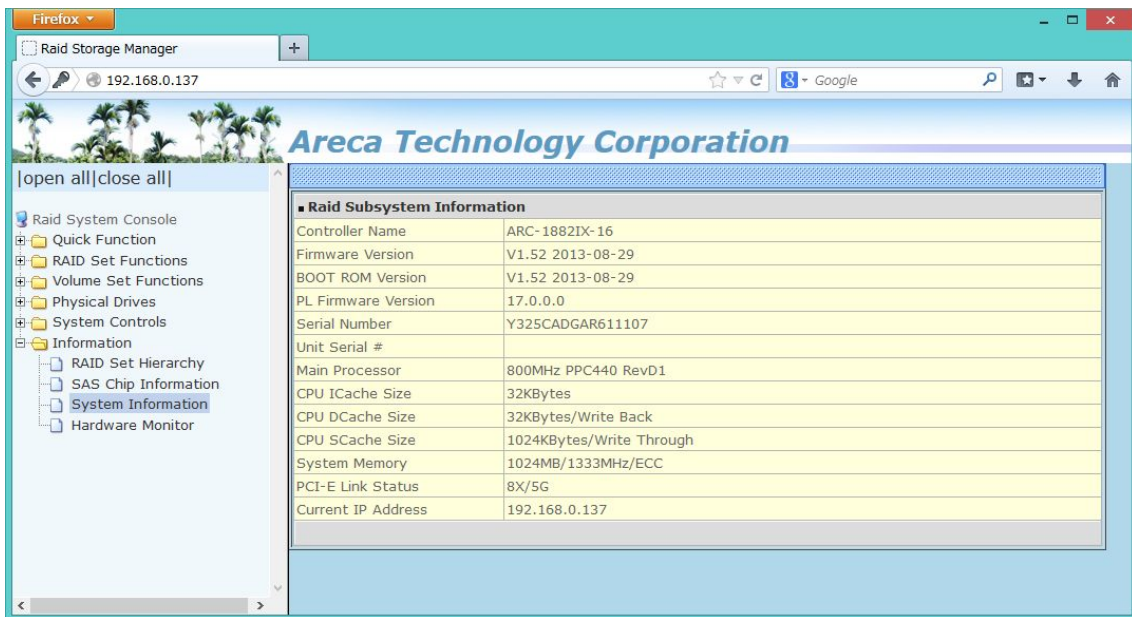
DHCP が OFF のネットワークの場合には項目 1.を確認のうえ、設定を行ってください。

Mozilla FireFox がインストールされていることを確認し、アドレス欄に下記を入力して下さい。 <http://192.168.0.137/>

下記のような画面が現れますので、ユーザ名とパスワードを入力してください。

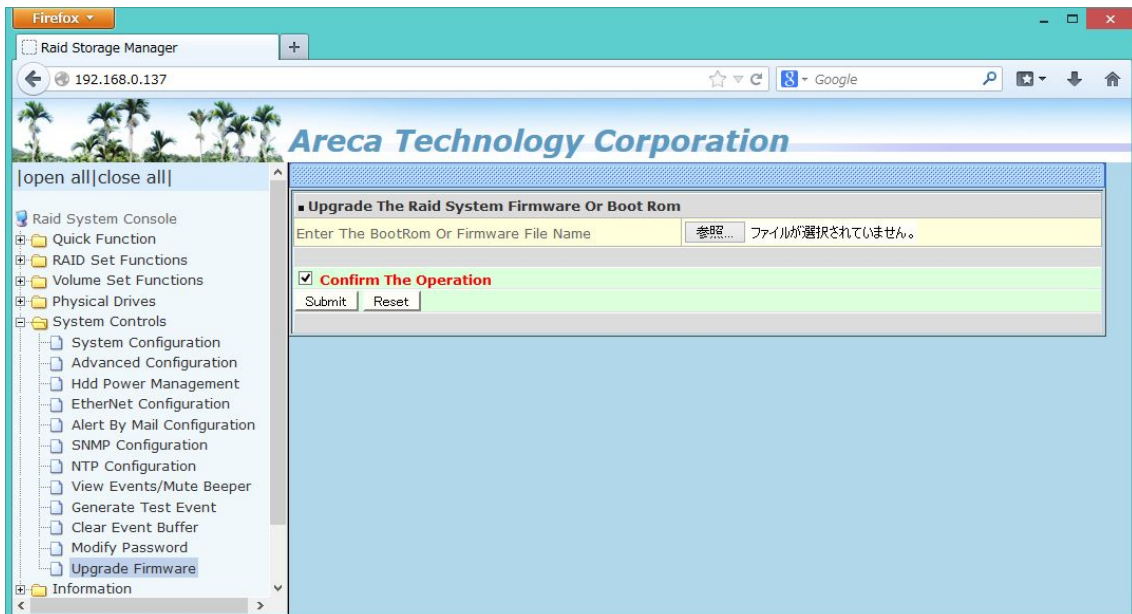
デフォルト設定は、ユーザ名:admin パスワード:0000
となります。

Information > System Information の順にクリックし、現在の適用 BIOS ファームを確認してください。 更新の必要がなければここでブラウザを閉じて終了してください。



更新の必要がある場合。

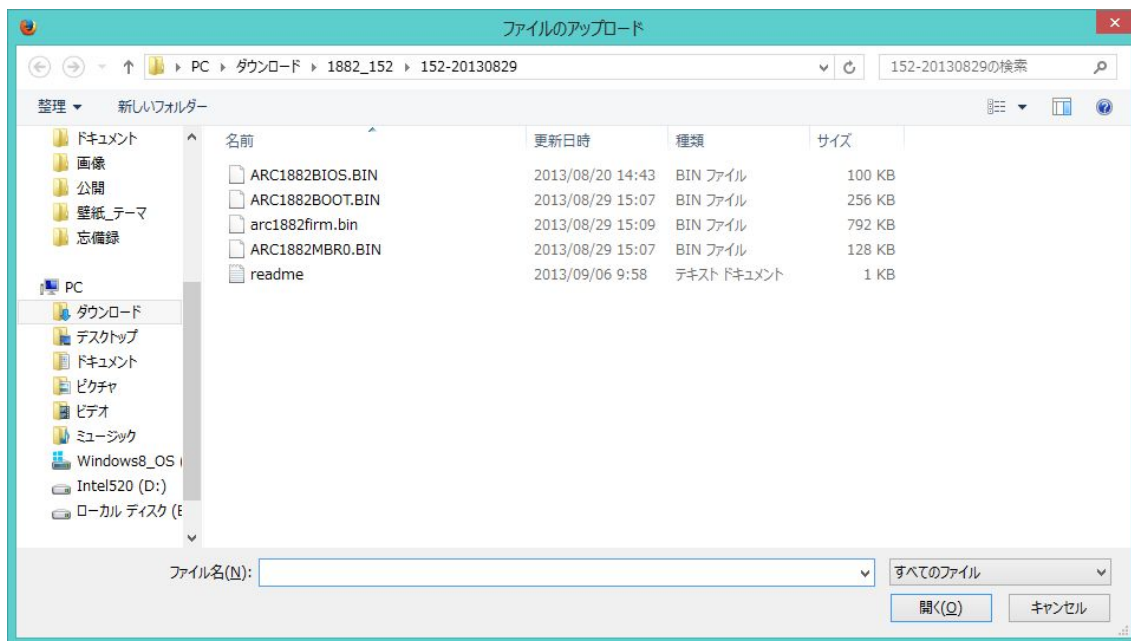
System Controls > Upgrade Firmware を選択してください。 下記のような画面になります。



Enter The BootRom Or Firmware File Name の横にある参照をクリックし、ファームウェアファイルの格納されたフォルダを選択してください。

選択をすると下記の様にアップロードを選択する画面が開かれますので、ダウンロードし解凍したフォルダまで移動して下さい。

その後更新するファイルをひとつずつ選択してください。

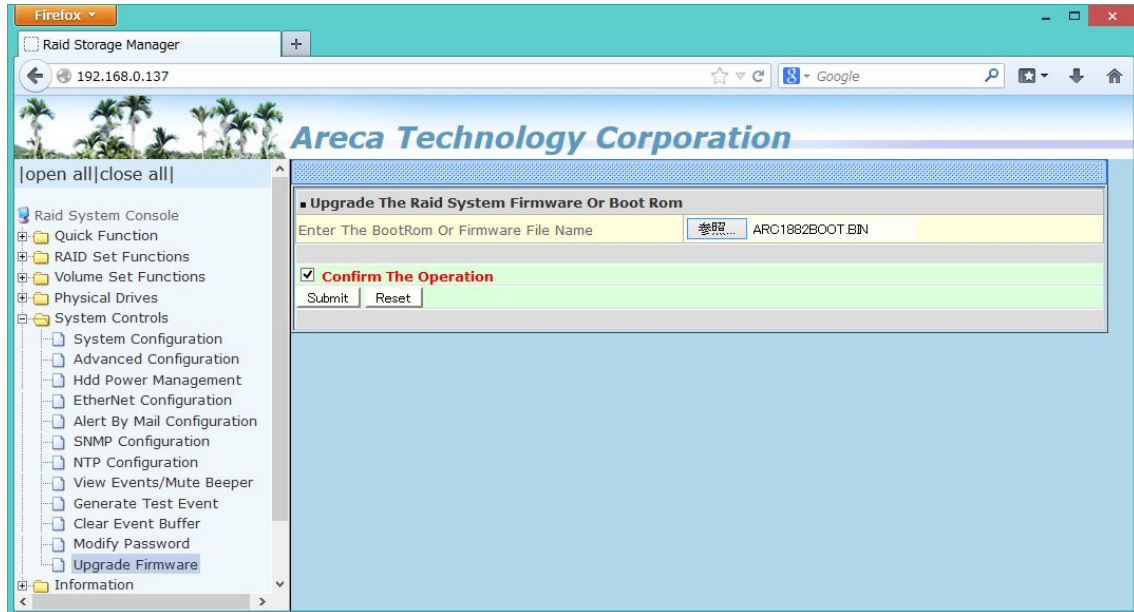


本製品は BIOS , Boot , Firmware , MBR で構成されております。

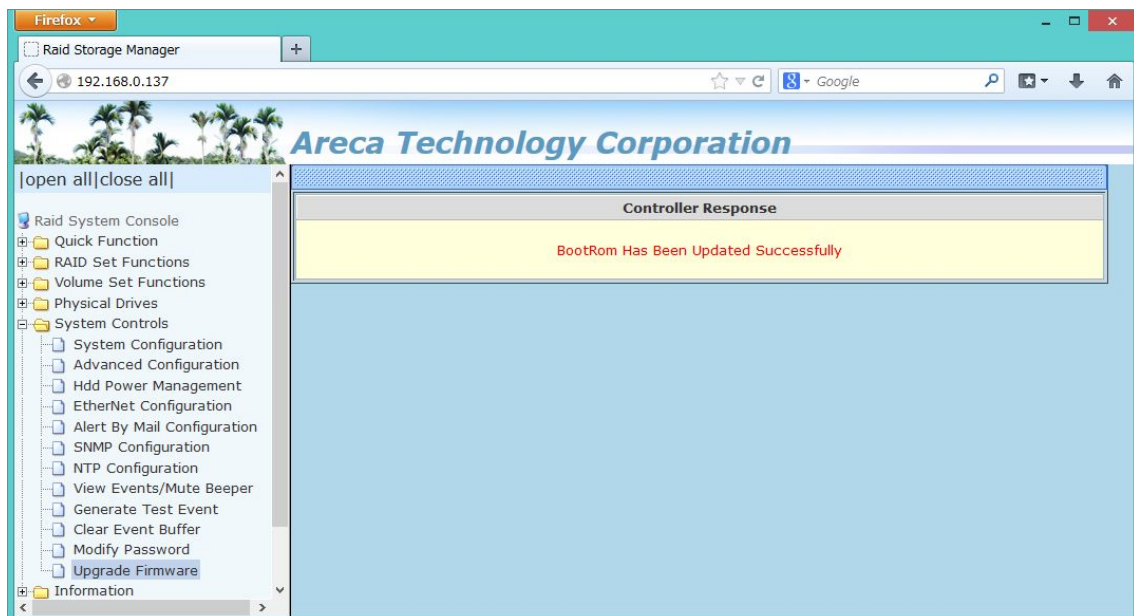
下記手順で更新を実施してください。

1. Boot 更新
2. Mbr0 更新
3. Firmware 更新
4. 更新確認後ここでPC と RAID 本体の再起動
5. 再度上記設定画面まで移動する。
6. BIOS 更新
7. ここでもう一度PC と RAID 本体の再起動
8. 設定画面にはいり更新されているか確認

Confirm The Operation のチェックボックスにチェックをいれた後に、submit をクリックしてください。



Updated Successfully と表示されれば完了です。



本作業を、 上記で記載した順番で繰り返して下さい。

更新後は必ず、安定動作の確認とバージョン確認を実施してください。

以上でファームウェア更新作業は完了です。